

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第267集

N E N E I I Y A S H I K I
根々井居屋敷遺跡 I

長野県佐久市根々井根々井居屋敷遺跡発掘調査報告書

2020.3

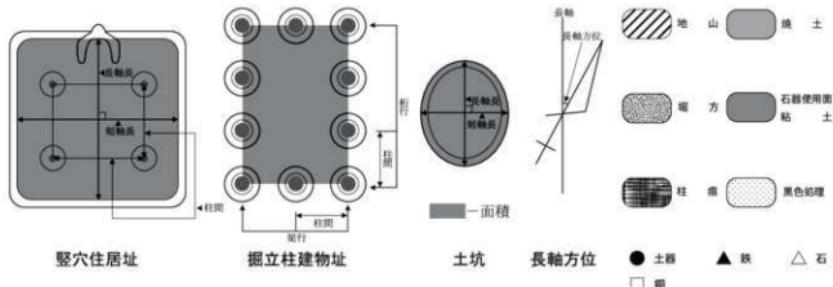
佐久市教育委員会

例　言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する根々井居屋敷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は社会福祉法人山栄会が行う福祉施設建設に伴う記録保存のために佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地　　根々井居屋敷遺跡(N I Y)
佐久市根々井字伊勢田816外
- 4 調査期間及び面積　　発掘調査：平成31年4月1日～令和元年5月10日
整　理：令和元年5月13日～令和3年3月19日
調査面積：690m²
- 5 本書に掲載した地図は佐久市役所発行の地形図(1:50,000)である。
- 6 遺構測量はTSを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構君」により図化した。図面トレースは「遺構君」で行い、Adobe Illustratorで調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影しAdobe Photoshopで補正等を行った。
編集はAdobe InDesignで行った。
- 7 本書の作成・編集は小林が行った。
- 8 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

- 1 掘図の縮尺は遺構1/80、遺物1/4(鉄器・鉄製品は1/2)を基本とするが、これ以外の物は図中に縮尺を記した。
- 2 海抜標高は、水系標高をスケールに「標高」として記してある。また、土色の色調は1999年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 3 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 4 掘図中の網掛けは以下の表現である。



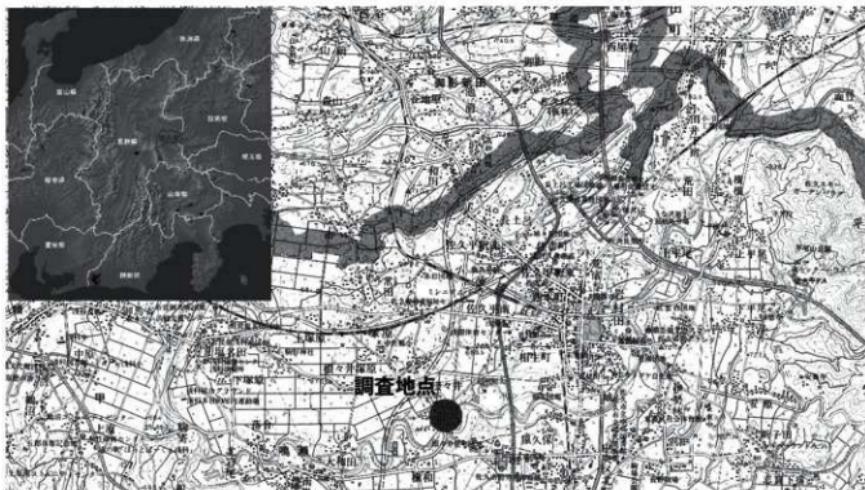
目　次

第Ⅰ章 調査の経緯	1
第1節 経過と立地	1
第2節 調査体制	3
第3節 検出遺構・遺物の概要	3
第Ⅱ章 遺構と遺物	3
第1節 住居址	3
第2節 穫穴建物址	7
第3節 掘立柱建物址	7
第4節 土坑	8
第5節 溝址	19
第6節 ピット	38
第7節 遺構外出土遺物	38
第Ⅲ章まとめ	38
表	29
図版	39
抄録	
奥付	

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 経過と立地

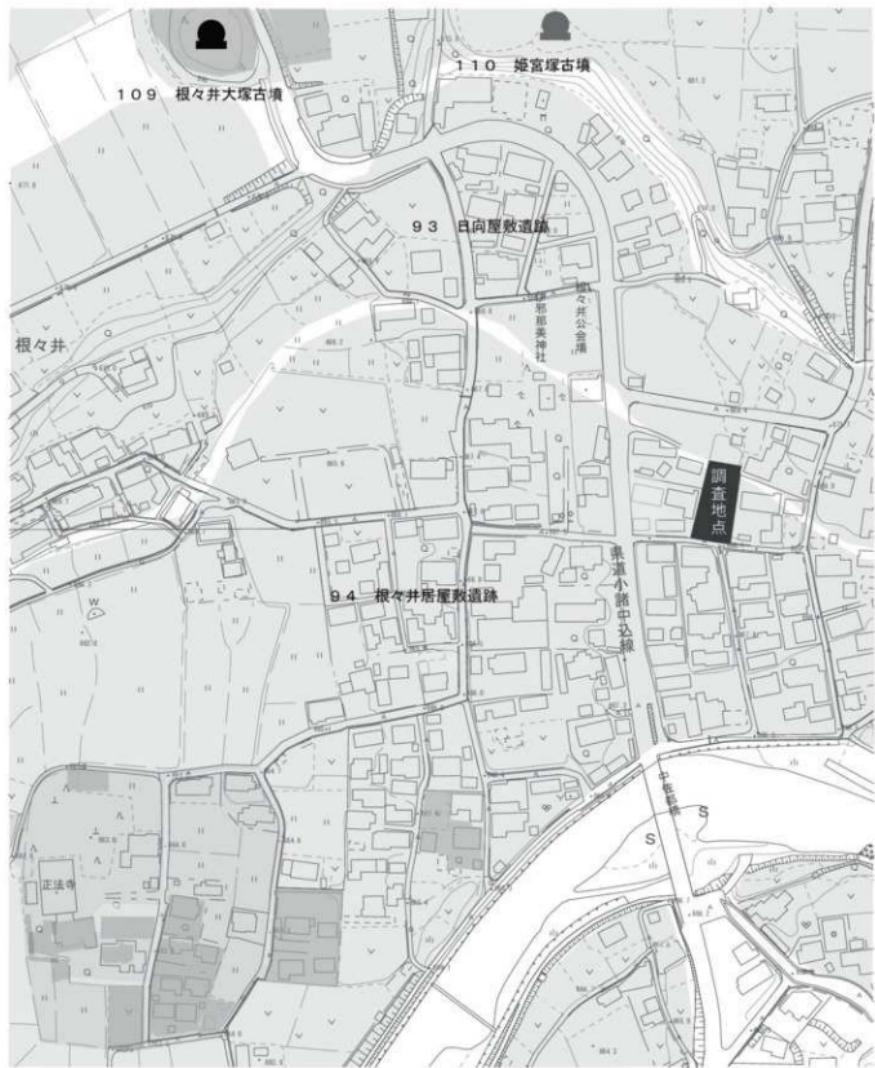
根々井居屋敷遺跡は佐久市根々井字伊勢田地籍に所在する。遺跡は湯川が形成した小規模な沖積地に位置し、北方には河岸段丘が聳え立つ。滋野氏の中核である望月氏から分かれた根々井氏の本拠地とされる地であり、その館に因む居屋敷地籍を包括する。調査地点はその端部にあり、日向屋



第1図 根々井居屋敷遺跡の位置 (1:50,000)

敷遺跡に隣接する。

今回、遺跡内で社会福祉法人山栄会により福祉施設の建設が計画されたことから、遺跡の保護を目的とし、状況を把握するための試掘調査を平成30年12月11日と平成31年3月13・14日に実施した。その結果、住居址等の遺構が検出されたため、遺構の破壊が予測される部分について記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。



第2図 調査地点周辺の過去の調査位置

第2節 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教 育 長	棚澤晴樹
事務局	社会教育部	部 長	青木 源（令和元年度） 三浦 一浩（令和2年度）
	文化振興課	課 長	東城 洋
		企 画 幹	吉田 晃（令和元年度） 岡部 政也（令和2年度）
	文化財調査係	係 長	山本秀典
		係	小林眞寿 羽毛田卓也 富沢一明 上原 学 久保浩一郎（令和元年11月まで、令和2年度）
		調査担当者	小林眞寿
		調査員	甘利隆雄 岩松茂年 大矢志摩 小林喜久子 小林節子 小林敏雄 堀 益子 清水律子 田中ひさ子 花岡美津子 細谷秀子 堀龍滋子 宮川真紀子 山口ひとみ 柳澤孝子 柳沢千賀子 山田叔正 油井満芳

第3節 検出遺構・遺物の概要

遺構 竪穴住居址 - 17棟 掘立柱建物址 - 2棟 竪穴建物址 - 3棟 土坑 - 13基 溝址 - 2条 ピット - 17基
遺物 弥生土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 石器・石製品 鉄器 古錢

第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 住居址

● H1号住居址（第3・43図）

調査区南端で検出された。H7・8、D6、M1を切っている。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N - 10° - Wに長軸方位をとり、短軸長 5.48m、壁残高 0.29m の規模である。P12・14の2基のピットには礎石が設置されていた。この2基とP2が主柱穴と思われる。カマドは北壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。周溝は有さない。

遺物は、土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。土師器には壺・椀・鉢・甕の器種が認められる。壺・椀のロクロからの切り離しは回転糸切である。内面はヘラミガキ後黒色処理か暗文後黒色処理である。甕は全て武藏甕である。須恵器には壺・壺蓋・鉢・甕・瓶の器種が認められる。壺のロクロからの切り離しは回転糸切である。壺蓋は扁平な擬宝珠つまみが付く。鉢は小型の仏鉢である。弥生土器は本址に先行するM2に帰属するものである。土師器壺1、鉢、須恵器瓶なども本址に伴うものではない。石器は四石と編物石が各1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

● H2号住居址（第4・44図）

調査区東南端、中央寄りで検出された。H11を切る。N - 90° - Eに長軸方位をとり、長軸長 4.27m、短軸長 3.61m、壁残高 0.23m の規模である。床面上から2基のピットが検出されているが、主柱穴は判然としない。カマドは残存していないが、カクランにより破壊されている可能性も高い。周溝は有さない。

遺物は、土師器、須恵器、石製品が出土している。土師器には、壺・榊・皿・甕の器種が認められる。壺・榊・皿のロクロからの切り離しは回転糸切であり、内面はヘラミガキ後黒色処理が施される。5は外面に墨書きが認められるが判読できない。甕は「コ」字口縁の武藏甕 14と、ハケメ調整の東海系と思われる 13が存在する。須恵器には壺・凸帯文付四耳壺の器種が認められる。壺のロクロからの切り離しは回転糸切である。石製品は滑石製の白玉が1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

● H3号住居址(第5・45図)

H2の東隣りに検出された。東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.31m の規模である。検出範囲にはカマド、ピット等は存在しない。

遺物は、須恵器有台壺の底部片と土師器甕の底部片が各1点出土しているが、本址の時期を比定出来るものではない。

● H4号住居址(第6・46図)

調査区中央南西寄りで検出された。M1に切られる。N-0°-Wに長軸方位をとる。長軸長 4.91m、短軸長 4.87m、壁残高 0.18m の規模である。床面、掘方から計 14基のピットが検出されたが主柱穴は判然としない。カマドは北壁の中央分に構築されているが、掘方状態に破壊されていた。周溝は有さない。

遺物は、土師器、須恵器、石器、鉄製品が出土している。土師器には壺・皿・甕の器種が認められる。壺・皿のロクロからの切り離しは回転糸切であり、内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。皿 4には墨書きが認められるが判読は出来ない。甕は武藏甕とロクロ甕が1点づつ出土した。須恵器には壺・壺蓋・甕の器種が認められる。壺のロクロからの切り離しは回転糸切である。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代VI期に比定され、9世紀後半の実年代が想定される。

● H5号住居址(第7・47図)

H4の南西隣りで検出された。M2を切る。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。長軸長 6.25m、壁残高 0.3m の規模である。床面上で 2基検出されたピットの内 P2は主柱穴である。検出範囲にはカマド・周溝は存在しなかった。

遺物は、土師器と石器が出土している。土師器は壺・甕・ミニチュア土器が各1点出土している。石器は磨石が1点出土している。

出土土器の形態的特徴から、本址は古墳時代後期 6世紀の所産と考えられる。

● H6号住居址(第8・48図)

調査区北端で検出された。F1を切り、H13に切られる。N-0°-Wに長軸方位をとる。長軸長 6.63m、短軸長 6.29m、壁残高 0.34m の規模である。P1・3~5の4基のピットが主柱穴である。P6は出入口施設であろう。壁際には均等に礎石が配置されており、壁柱穴と同様な機能をはたしたものと考えられる。カマドは北壁の中央部分に検出されたが、掘方状態に破壊されていた。掘方からは旧住居が確認されており、本址は拡張して建て替えが行われたことが判明した。周溝は有さない。

遺物は、土師器、須恵器、石器が出土している。土師器には壺・甕の器種が認められる。壺の底部にはヘラケズリ調整が加えられ、内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。甕にはロクロ甕と武藏甕の器種が認められる。須恵器には壺・壺蓋・有台壺・甕の器種が認められる。壺・有台壺のロクロからの切り離しはヘラ切であるが、5のみ回転糸切である。甕は凸帯を持たない四耳甕の破片である。石器

は縞物石と磨石が各2点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ期に比定され、8世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定される。

● H7号住居址(第9図)

調査区南端で検出された。H1に切られる。壁残高 0.25mの規模である。床面上、掘方から計3基のピットが検出されたが、主柱穴は判然としない。検出範囲にはカマド、周溝は存在しなかった。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

● H8号住居址(第10・49図)

調査区南端で検出された。H1・7に切られ、M2を切る。壁残高 0.16mの規模である。床面上、掘方から検出された3基のピットの内、P1・2の2基は主柱穴である。検出範囲にはカマド、周溝は存在しなかった。

遺物は、土師器、土師質土器、須恵器、石製品が出土している。土師器には皿・甕の器種が認められる。皿はロクロから回転糸切で切り離した後高台を付している。内面にはヘラミガキ後に黒色処理が施される。甕は武藏甕である。土師質土器は近世以降のものである。須恵器は、底部に回転糸切痕を残す环が1点出土している。石製品は滑石製の白玉が1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

● H9号住居址(第11・50図)

H8の北隣りに検出された。H11を切る。長軸方位をN-0°-Wにとる。長軸長 3.79m、短軸長 3.54m、壁残高 0.07mの規模である。掘方から3基のピットが検出されたが主柱穴は判然としない。カマドは北壁中央部分に存在したようであるが、遺構の残存状態が悪く不明瞭である。周溝は有さない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、銅製品が出土している。土師器には环・甕の器種が認められる。环のロクロからの切り離しは回転糸切である。内面は暗文後黒色処理が施される。甕は武藏甕とロクロ甕が認められる。須恵器は环片が1点出土した。弥生土器は中期稟林式の壺体部片が1点出土した。銅製品は「和同開珎」の完品が1点出土した。本市では7例目の出土である。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代VI期に比定され、9世紀後半の実年代が想定される。

● H10号住居址(第12・51図)

調査区中央北寄りに検出された。H15・17を切る。長軸方位をN-10°-Wにとる。長軸長 6.55m、短軸長 6.36m、壁残高 0.36mの規模である。P1～P4の4基のピットが主柱穴である。P5は出入口施設と思われる。カマド北壁中央部分に構築されるが、掘方状態に破壊されていた。周溝は有さない。

遺物は、土師器、須恵器、石器・石製品、鉄器が出土している。土師器には环・甕の器種が認められる。环はヘラケズリ調整によりロクロから切り離し痕を消去している。甕は全て武藏甕である。須恵器には环・有台环・环蓋・甕の器種が認められる。环のロクロからの切り離しは回転糸切である。有台环は底部を欠損する。环蓋には擬宝珠状のつまみが付く。甕は広口で頸部が短いもので、成型痕はロクロナデにより消去される。石器は砥石と磨石、凹石が出土している。鉄器は短頭鎌・角釘・鎌・軸棒が出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代IV期に比定され、8世紀第IV四半期の実年代が想定される。

● H11号住居址(第13・52図)

調査区南端付近で検出された。H2・9に切られる。長軸方位をN-5°-Eにとる。長軸長3.76m、短軸長3.54m、壁残高0.13mの規模である。掘方から5基のピットが検出されたが、主柱穴は判然としない。北壁中央やや東寄りの部分には焼土が認められることから、この部分にカマドが構築されていたものと考えられる。周溝は存在しなかった。

遺物は、土師器、須恵器、鉄器が出土した。土師器には環・甕の器種が認められる。環のロクロからの切り離しは回転糸切である。内面にはヘラミガキあるいは暗文後黒色処理が施される。2には墨書が認められるが判読できない。甕はロクロ甕である。須恵器は甕の口縁部片が1点出土した。鉄器は左用の鎌が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代VI期に比定され、9世紀後半の実年代が想定される。

● H12号住居址(第14・53図)

H9の東隣りで検出された。H11を切る。長軸方位をN-79°-Wにとる。長軸長3.76m、短軸長3.54m、壁残高0.13mの規模である。床面上から2基のピットが検出されたが、主柱穴は判然としない。カマドは判然とせず、周溝も存在しない。

遺物は、土師器と須恵器が出土した。全て環である。ロクロからの切り離しは土師器、須恵器共に回転糸切である。土師器の内面にはヘラミガキ後黒色処理が施されている。3は外面に墨書が認められるが判読できない。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

● H13号住居址(第15・54図)

調査区北端で検出された。H6を切り、F1に切られる。長軸方位をN-3°-Eにとる。長軸長3.33m、壁残高0.18mの規模である。カマドは北壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていたが、掘方状態に破壊されていた。柱穴、周溝は有さない。

遺物は、土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器には環・甕の器種が認められる。環のロクロからの切り離しは回転糸切である。内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。甕は1点が武藏甕のほかはロクロ甕である。須恵器には環・环蓋・甕の器種が認められる。環のロクロからの切り離しは回転糸切である。环蓋には擬宝珠状のつまみが付く。甕は底部片である。石器は砾石・台石が石製品は臼・搗臼が出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

● H14号住居址(第16・55図)

調査区西端付近で検出された。H16を切る。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.3mの規模である。検出範囲にはカマド、柱穴、周溝は認められなかった。

遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器が出土している。土師器には環・椀・皿・甕の器種が認められる。环・椀・皿のロクロからの切り離しは回転糸切である。内面は1がナデ後黒色処理、2がヘラミガキ後黒色処理、3はナデのみである。甕は全てロクロ甕である。須恵器には环・甕の器種が認められる。环のロクロからの切り離しは回転糸切である。甕は小型の薬甕である。灰釉陶器は椀の底部片が1点出土している。鉄器は基部を欠損する刀子が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代VI期に比定され、9世紀後半の実年代が想定される。

● H15号住居址(第17・56図)

東側をH10に切られるため、全容は不明である。壁残高0.35mの規模である。検出範囲にはカマド、柱穴、周溝は認められなかった。

遺物は須恵器の壺と甕の破片が各1点出土したが、本址の時期を確定出来るものではない。

● H16号住居址(第18・57図)

南側をH14に切られ、西方向に調査区外に延びるため、全容は不明である。壁残高0.16mの規模である。検出範囲にはカマド、柱穴、周溝は認められなかった。

遺物は、土師器ロクロ甕と須恵器壺が各1点出土している。壺のロクロからの切り離しはヘラ切である。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅱ期に比定され、8世紀第Ⅱ四半期の実年代が想定される。

● H17号住居址(第19・58図)

南側をH10に切られるため、全容は不明である。壁残高0.09mの規模である。検出範囲にはカマド、柱穴、周溝は認められなかった。

遺物は、土師器の椀が1点出土したが、本址の時期を確定出来るものではない。

第2節 竪穴建物址

● Ta1号竪穴建物址(第20・59図)

調査区西南端で検出された。Ta2を切る。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.21mの規模である。柱穴、周溝等は存在しない。

遺物は、土師器壺2点と滑石製白玉1点が出土している。土師器壺は1が平安時代、2が古墳時代のものであり、本址の時期を確定出来るものではない。

● Ta2号竪穴建物址(第21・59図)

調査区西南端で検出された。Ta1に切られ、南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.18mの規模である。柱穴、周溝等は存在しない。

遺物は、土師器壺と台壺甕が各1点出土しているが、本址の時期を確定出来るものではない。

● Ta3号竪穴建物址(第22・59図)

H5とH9の間で検出された。D2に切られ、D8・9を切る。N-4°-Eに長軸方位をとり、長軸長2.64m、壁残高0.28mの規模である。柱穴、周溝等は存在しない。

遺物は、土師器壺・甕、須恵器壺、打製石斧が出土しているが、本址の時期を確定出来るものではない。

第3節 掘立柱建物址

● F1号掘立柱建物址(第23図)

調査区北端で検出された。H6・13に切られる。2間×3間の側柱の形態で、N-80°-Wに長軸方位をとり、桁行長4.22m、梁間長3.53m、平面積14.88m²の規模である。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

● F2号掘立柱建物址(第24図)

調査区中央やや北寄りで検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。検出範囲では他遺構との重複関係は有さない。2間×?間の側柱の形態と思われる。N-84°-Eに長軸方位をとり、梁間長3.70mの規模である。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

第4節 土坑

● D1号土坑(第25・60図)

調査区中央南寄りで検出された。H4を切り、M1に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。N-43°-Wに長軸方位をとり、長軸長1.31m、短軸長1.23m、壁残高0.62m、面積0.26m²の規模である。

遺物は、土師器と須恵器が出土している。土師器には壺・椀の器種が認められる。壺は内面に暗文を施す所謂「機内系暗文壺」である。椀はロクロからの切り離しは回転糸切で、内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。3は墨書きが認められるが判読できない。須恵器は甕の口縁部片が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

● D2号土坑(第26図)

D1の南側で検出された。Ta3、D7に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。N-10°-Eに長軸方位をとり、長軸長0.93m、短軸長0.81m、壁残高0.62m、面積0.22m²の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

● D3号土坑(第27・60図)

H3の南側で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面不整形、断面逆梯形の形態である。N-0°-Eに長軸方位をとり、長軸長2.15m、壁残高0.15mの規模である。

遺物は、土師器、須恵器、石器が出土している。土師器には壺・甕の器種が認められる。壺は底部を欠損する。甕はロクロ甕である。須恵器は壺が2点出土している。ロクロからの切り離しは回転糸切である。石器は磨石が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

● D4号土坑(第28図)

調査区中央で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面長方形、断面逆梯形の形態である。N-11°-Eに長軸方位をとり、長軸長1.19m、短軸長0.76m、壁残高0.22m、面積0.54m²の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

● D5号土坑(第29・60図)

D4の南で検出された。M1に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。N-0°-Eに長軸方位をとり、長軸長2.83m、短軸長2.19m、壁残高0.23mの規模である。

遺物は、土師器、灰釉陶器が出土している。土師器には壺・甕の器種が認められる。壺のロクロからの切り離しは回転糸切で、内面に黒色処理は施されない。甕は同一個体と思われるもので、判読出

來ない刻書文字が認められる。灰釉陶器は碗が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅶ期に比定され、10世紀前半の実年代が想定される。

● D6号土坑(第30・60図)

調査区南端で検出された。H1に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。短軸長1.20m、壁残高0.30mの規模である。

遺物は、土師器、須恵器が出土している。土師器は回転糸切で、内面ヘラミガキ後黒色処理が施される椀が1点出土した。須恵器は底部右回転糸切の坏と、坏蓋片が出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅶ期に比定され、10世紀前半の実年代が想定される。

● D7号土坑(第31図)

D2に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。N-10°-Eに長軸方位をとり、長軸長1.19m、壁残高0.17mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

● D8号土坑(第32図)

Ta3,D2に切られる。平面長方形、断面逆梯形の形態である。N-80°-Wに長軸方位をとり、長軸長1.53m、短軸長0.76m、壁残高0.25mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

● D9号土坑(第33・60図)

Ta3,D2・8に切られる。平面長方形、断面逆梯形の形態である。N-90°-Wに長軸方位をとり、短軸長1.75m、壁残高0.08mの規模である。

遺物は、9世紀代のものと思われる土師器武藏壺の体部が1点出土した。

● D10号土坑(第34・60図)

調査区南端付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。N-11°-Eに長軸方位をとり、長軸長0.94m、短軸長0.79m、壁残高0.2m、面積0.34m²の規模である。

遺物は、底部に右回転糸切を残し、内面ヘラミガキ後黒色処理が施される土師器坏底部が1点出土している。9世紀代の所産である。

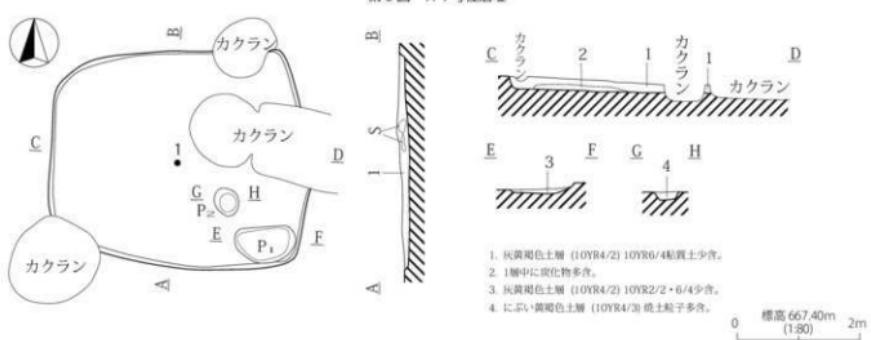
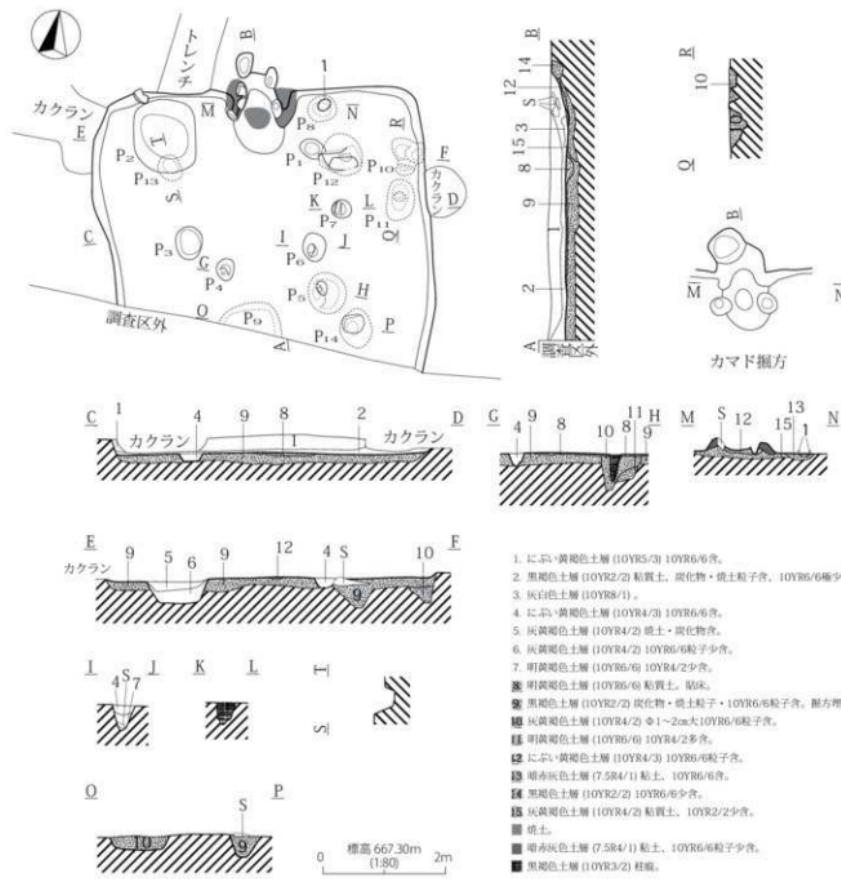
● D11号土坑(第35図)

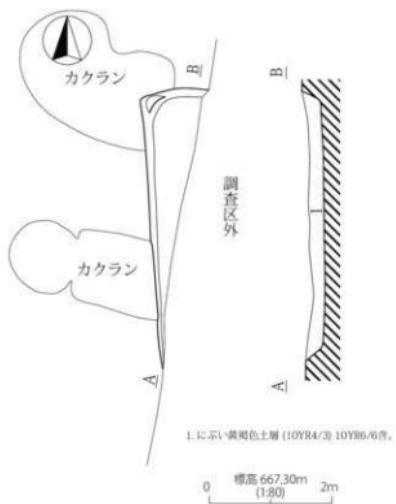
調査区南端付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面長方形、断面逆梯形の形態である。N-31°-Eに長軸方位をとり、長軸長0.81m、短軸長0.50m、壁残高0.28m、面積0.13m²の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の時期は不明である。

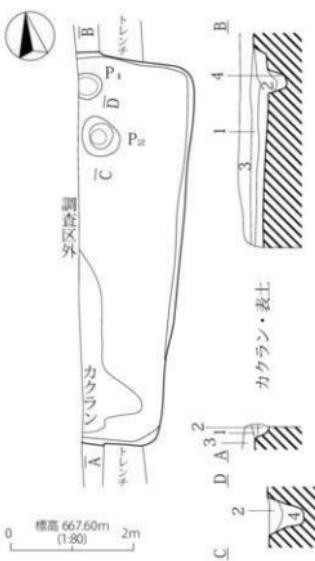
● D12号土坑(第36・60図)

調査区中央付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。N-18°-Eに長軸方位をとり、長軸長0.85m、短軸長0.49m、壁残高0.16m、面積0.19m²の規模である。

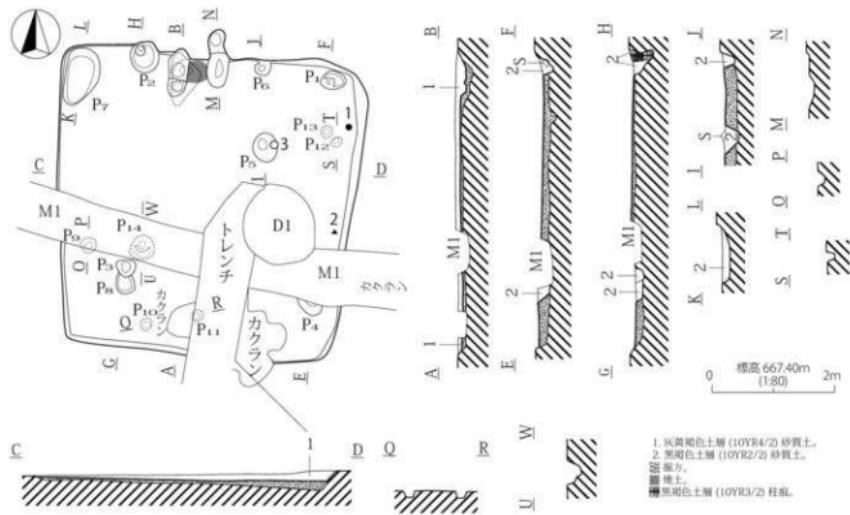




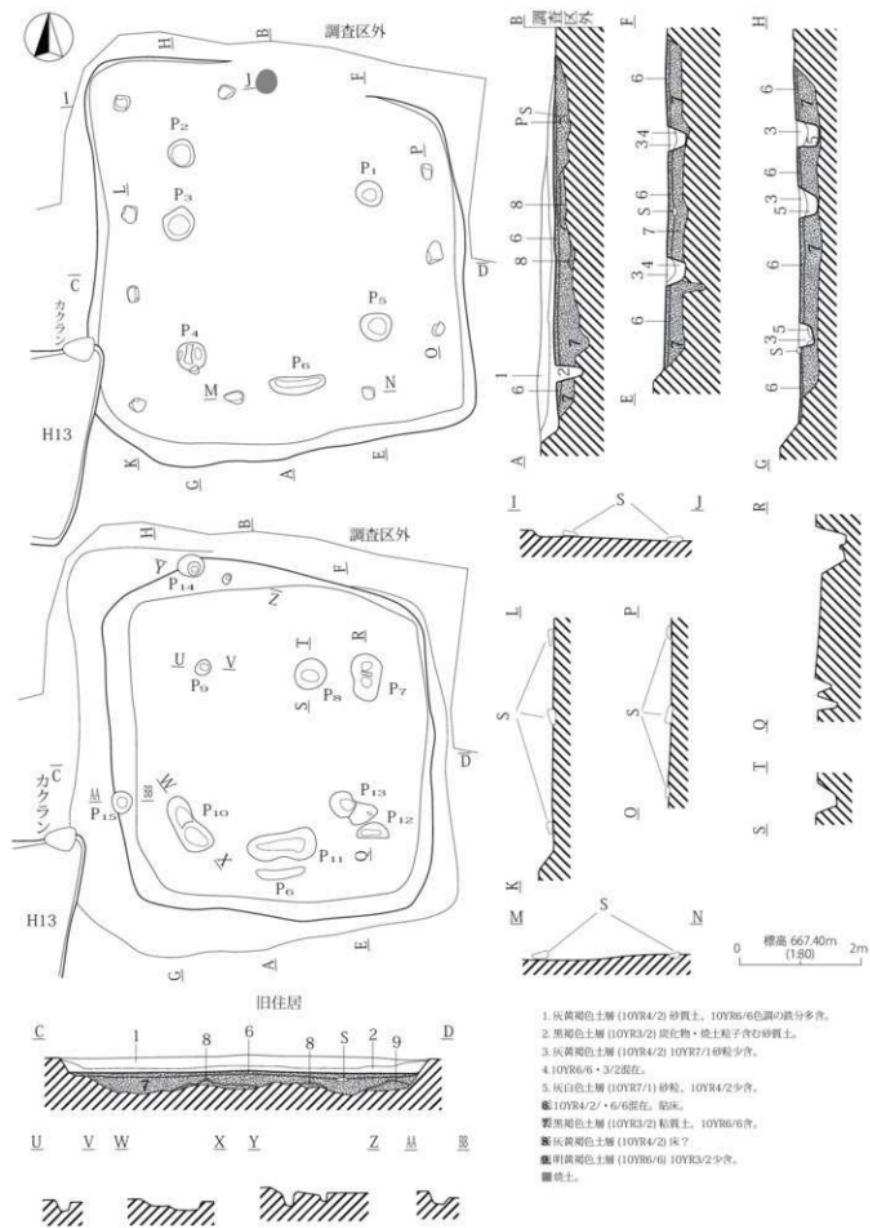
第5図 H 3号住居址



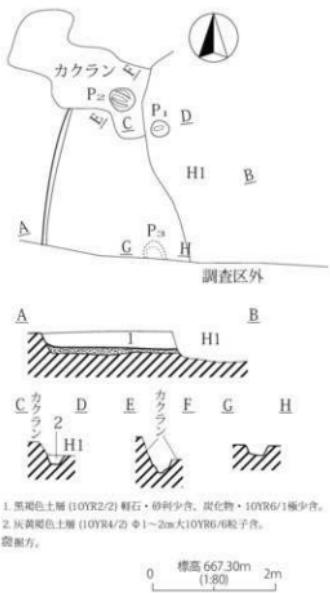
第7図 H 5号住居址



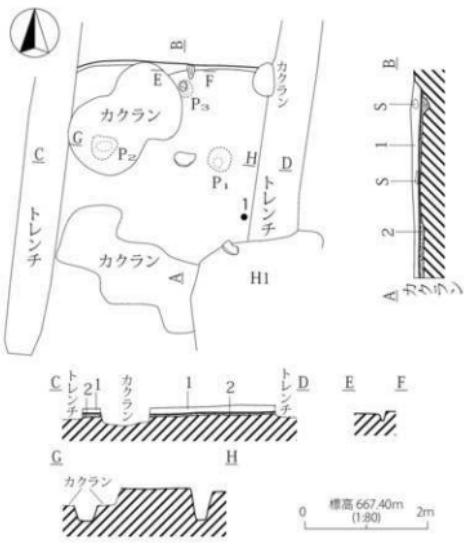
第6図 H 4号住居址



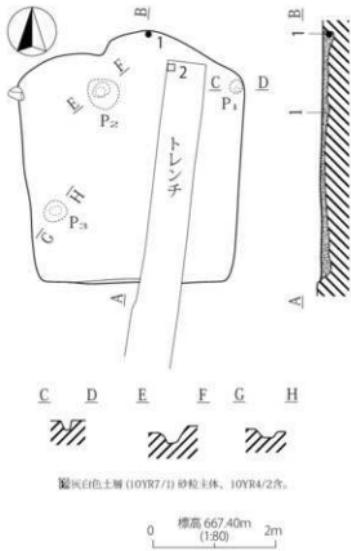
第8図 H6号住居址



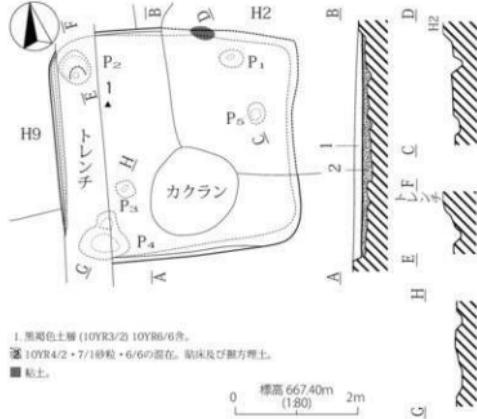
第9図 H 7号住居址



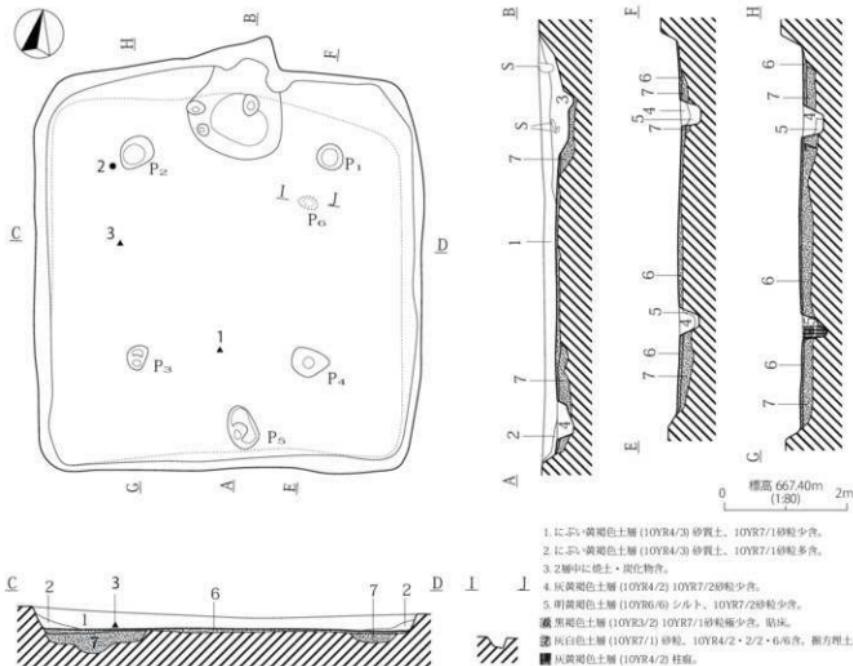
第10図 H 8号住居址



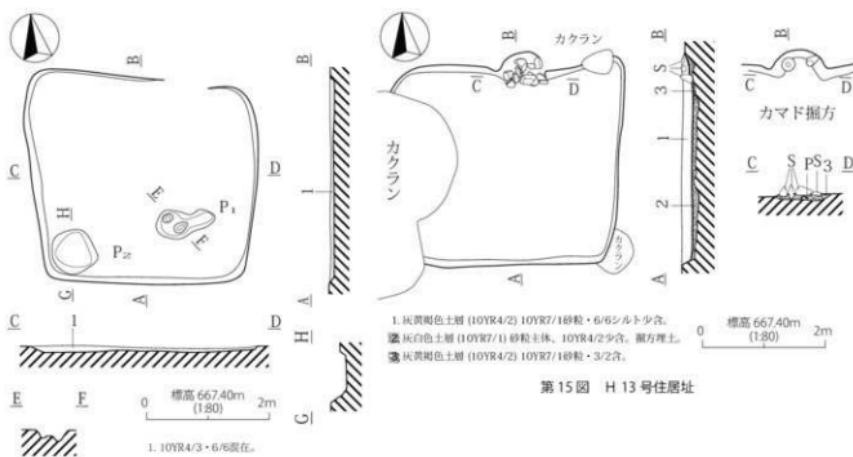
第11図 H 9号住居址



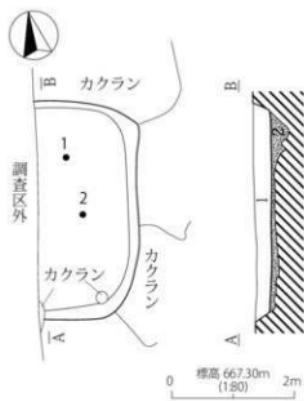
第13図 H 11号住居址



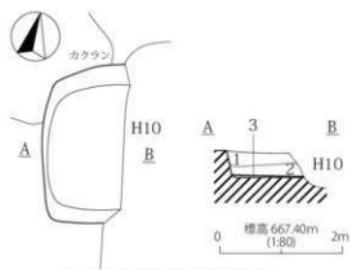
第12図 H 10号住居址



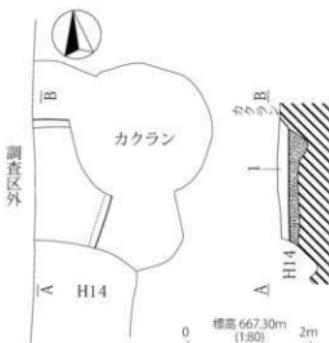
第14図 H 12号住居址



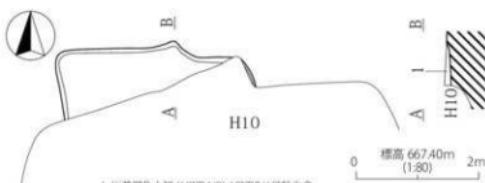
第16図 H 14号住居址



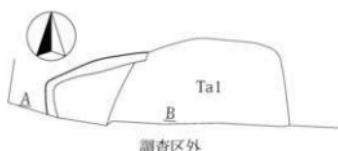
第17図 H 15号住居址



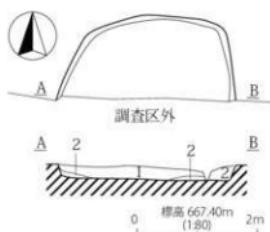
第18図 H 16号住居址



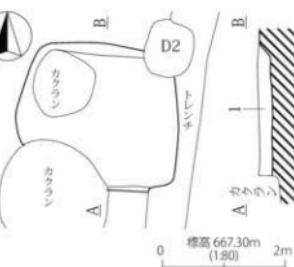
第19図 H 17号住居址



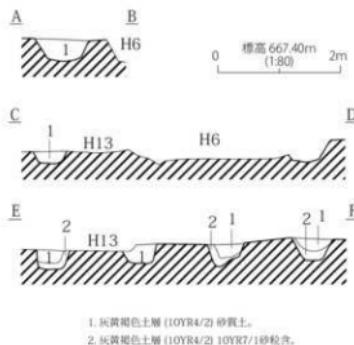
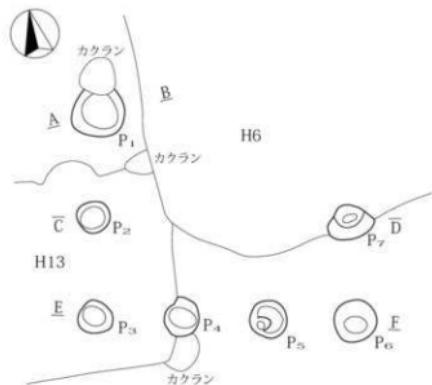
第20図 T a 1号整穴建物址



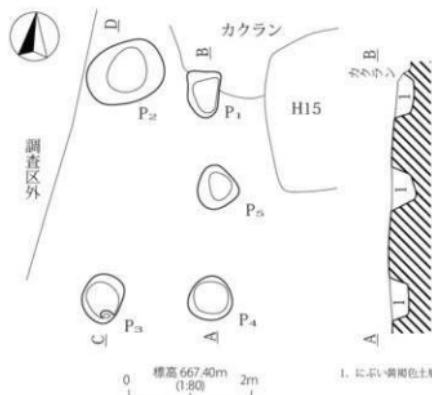
第21図 T a 2号整穴建物址



第22図 T a 3号整穴建物址



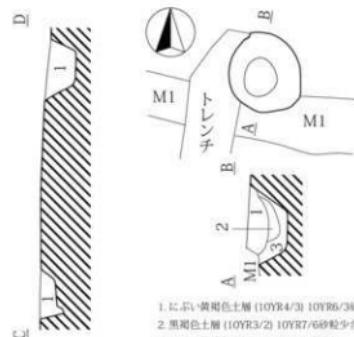
第23図 F 1号掘立柱建物址



1. にじい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR8/6シルト少含。

2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6砂粒少含。

3. にじい黄褐色土層 (10YR5/3) 砂質土。

0 標高 667.30m 2m
(1.80)

1. にじい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR6/3砂粒含。

2. 黑褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6砂粒少含。

3. にじい黄褐色土層 (10YR5/3) 砂質土。

0 標高 667.30m 2m
(1.80)

1. にじい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR6/3砂粒含。

2. 黑褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6砂粒少含。

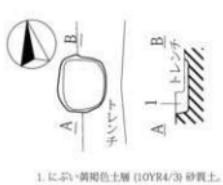
3. にじい黄褐色土層 (10YR5/3) 砂質土。

0 標高 667.30m 2m
(1.80)

1. にじい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR6/3砂粒含。

2. 黑褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6砂粒少含。

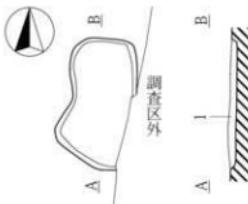
3. にじい黄褐色土層 (10YR5/3) 砂質土。

0 標高 667.30m 2m
(1.80)

1. にじい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂質土。

0 標高 667.20m 2m
(1.80)

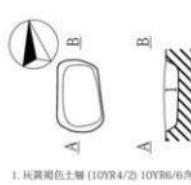
第26図 D 2号土坑



1. にじい黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR6/6少。

0 標高 667.30m 2m
(1.80)

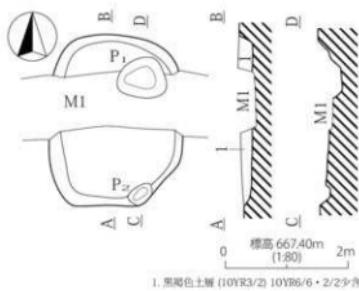
第27図 D 3号土坑



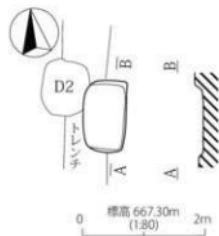
1. にじい黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR6/6少。

0 標高 667.40m 2m
(1.80)

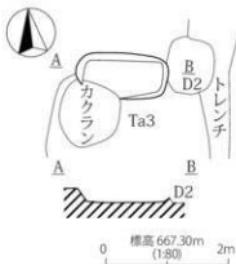
第28図 D 4号土坑



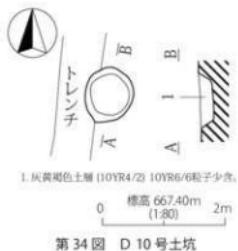
第29図 D 5号土坑



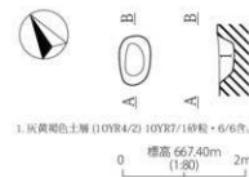
第31図 D 7号土坑



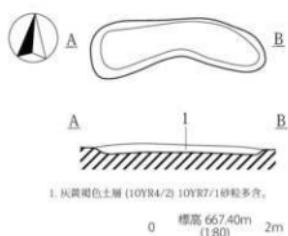
第32図 D 8号土坑



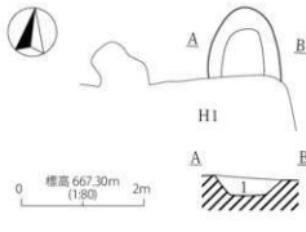
第34図 D 10号土坑



第35図 D 11号土坑

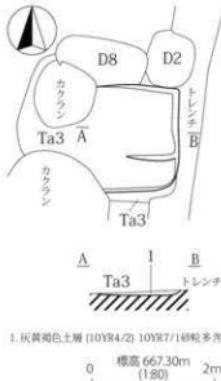


第37図 D 13号土坑

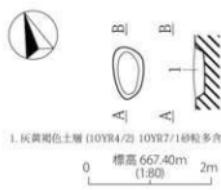


1. 灰い黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR6/6粒子・堆土・炭化物含。

第30図 D 6号土坑



第33図 D 9号土坑



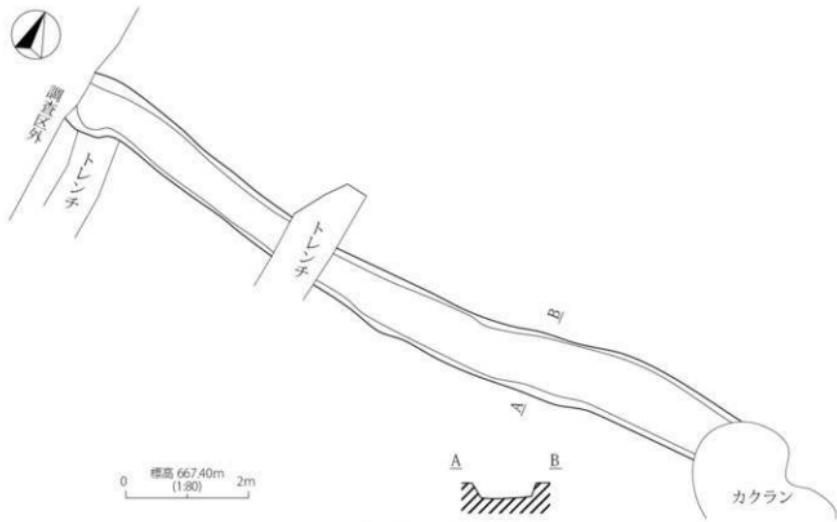
第36図 D 12号土坑

遺物は、底部を欠損する内外面口クロナデの土師器壺片が1点出土している。10世紀代の所産であろう。

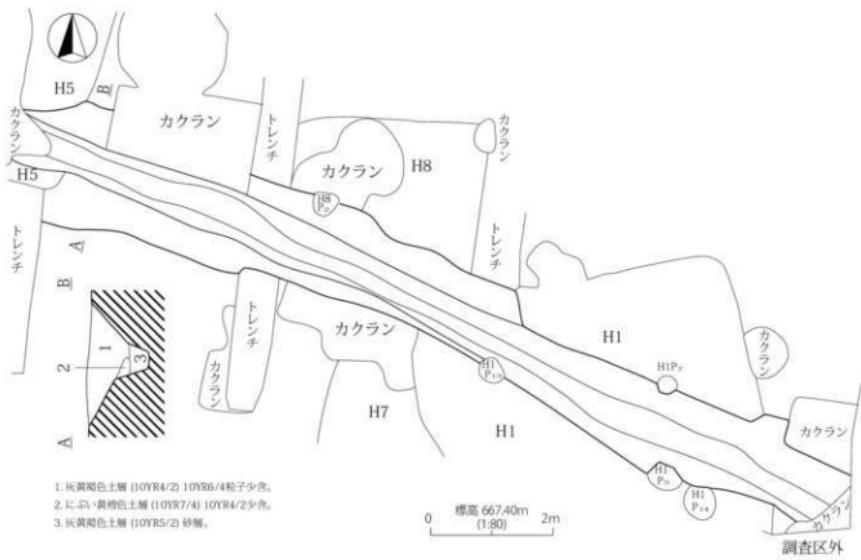
● D13号土坑(第37・60図)

調査区中央付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面不整形、断面逆梯形の形態である。N - 86° - Eに長軸方位をとり、長軸長 2.85m、短軸長 0.92m、壁残高 0.11m、面積 1.34 m²の規模である。

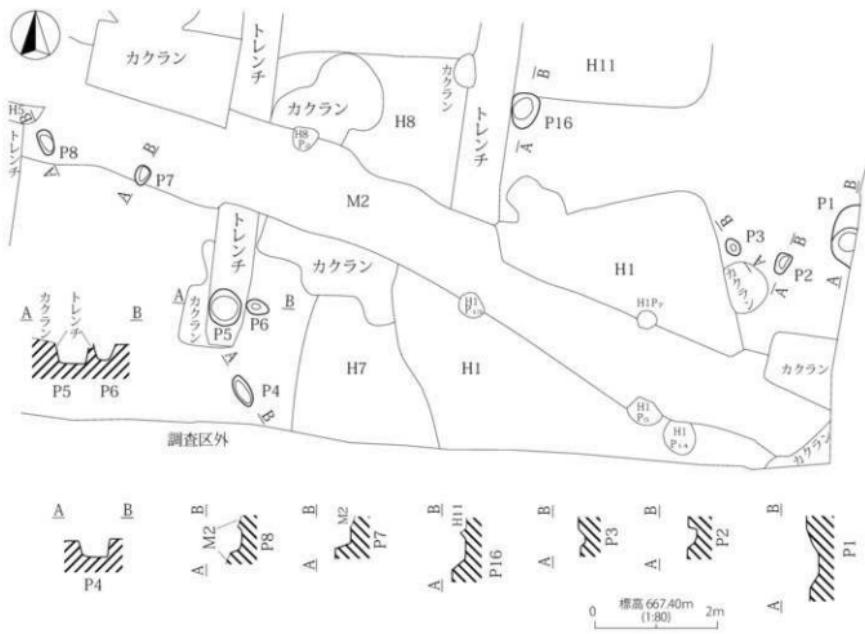
遺物は、回転糸切でロクロから切り離された。付高台、内面ヘラミガキ後黒色処理の土師器椀片が1点出土している。9世紀代の所産であろう。



第38図 M1号溝址



第39図 M2号溝址



第40図 ピット(I)

第4節 溝址

● M1号溝址(第38・63図)

調査区中央やや南寄りで検出された。H4、D1・5を切る。最大長 12.02m、最大幅 1.12m、最大深度 0.26m の規模である。西から東に向かい緩やかに傾斜している。

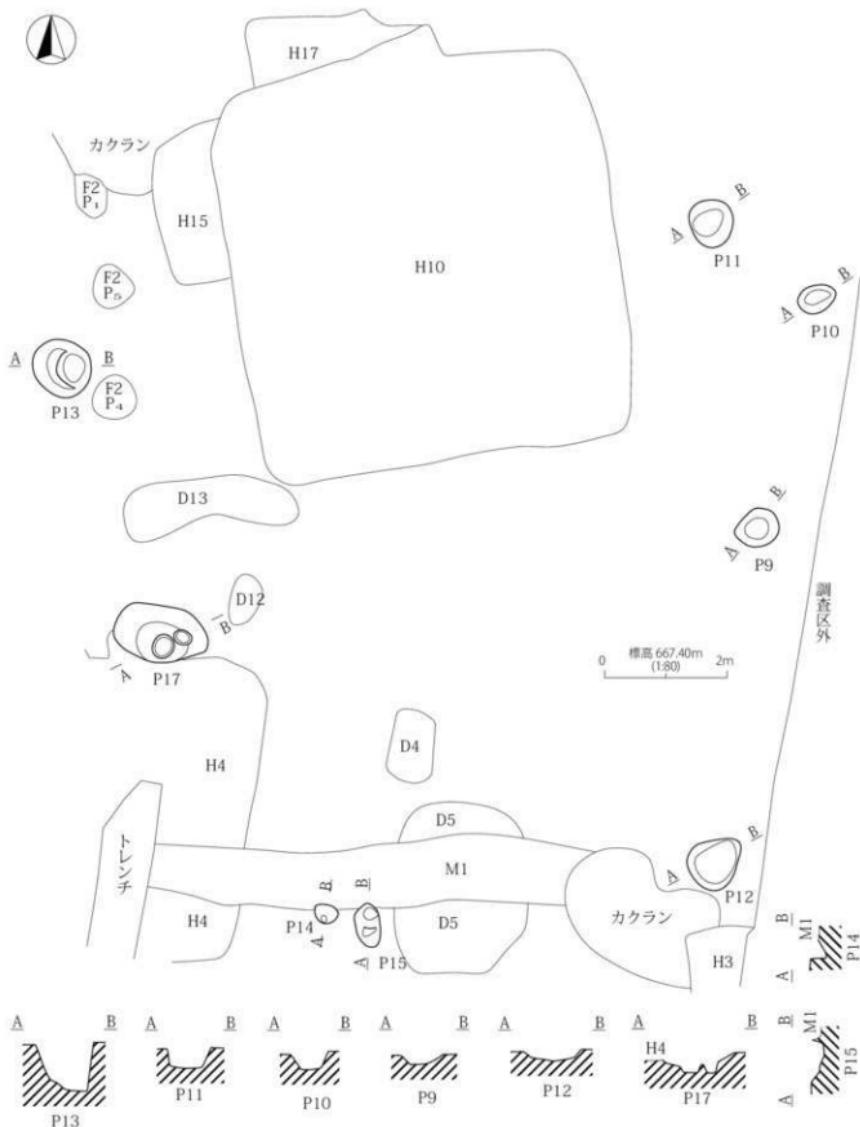
遺物は土師器と軽石製品が出土している。土師器には壺・椀・甕の器種が認められる。壺は口縁部の小破片であるが、判読不可能な墨書きが認められる。椀は全てロクロからの切り離しは回転糸切である。内面は、ヘラミガキ後黒色処理が施される。甕は武藏甕とロクロ甕が各1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

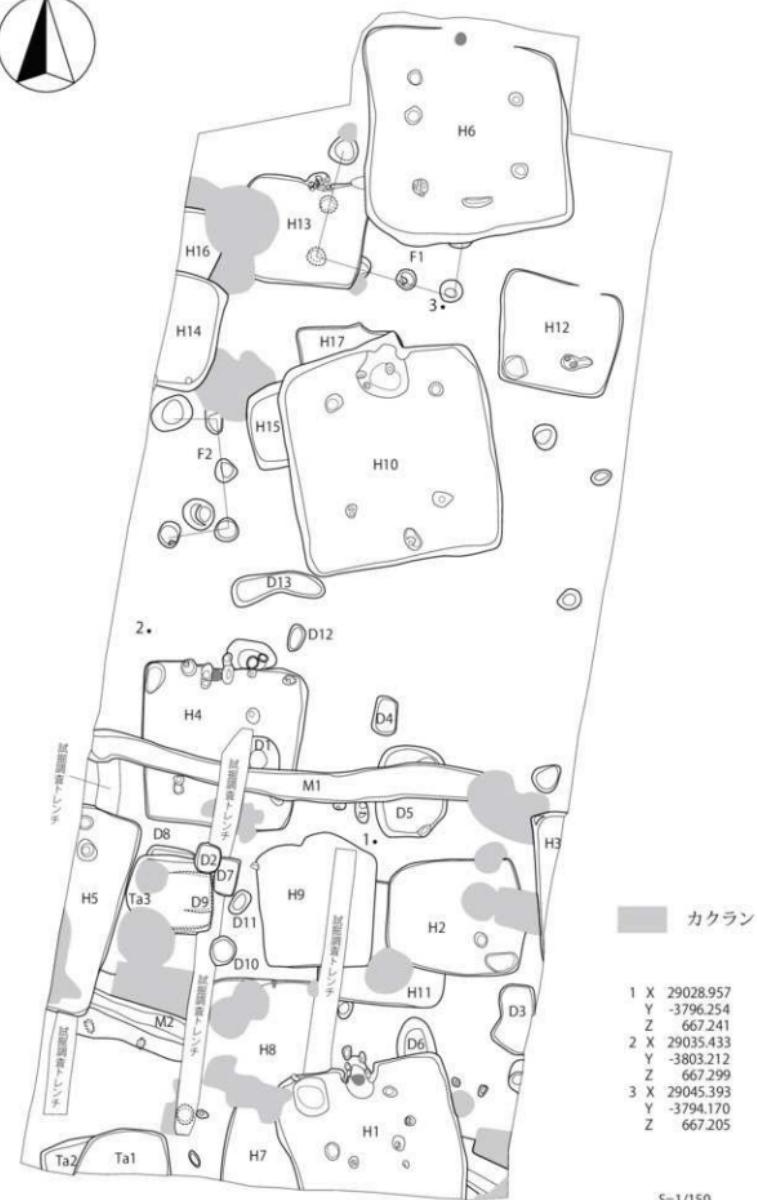
● M2号溝址(第39・63図)

調査区南端で検出された。H1・5・8に切られる。最大長 14.72m、最大幅 1.45m、最大深度 0.94m の規模であり、西から東に向かい傾斜している。断面は「V」字を呈する。

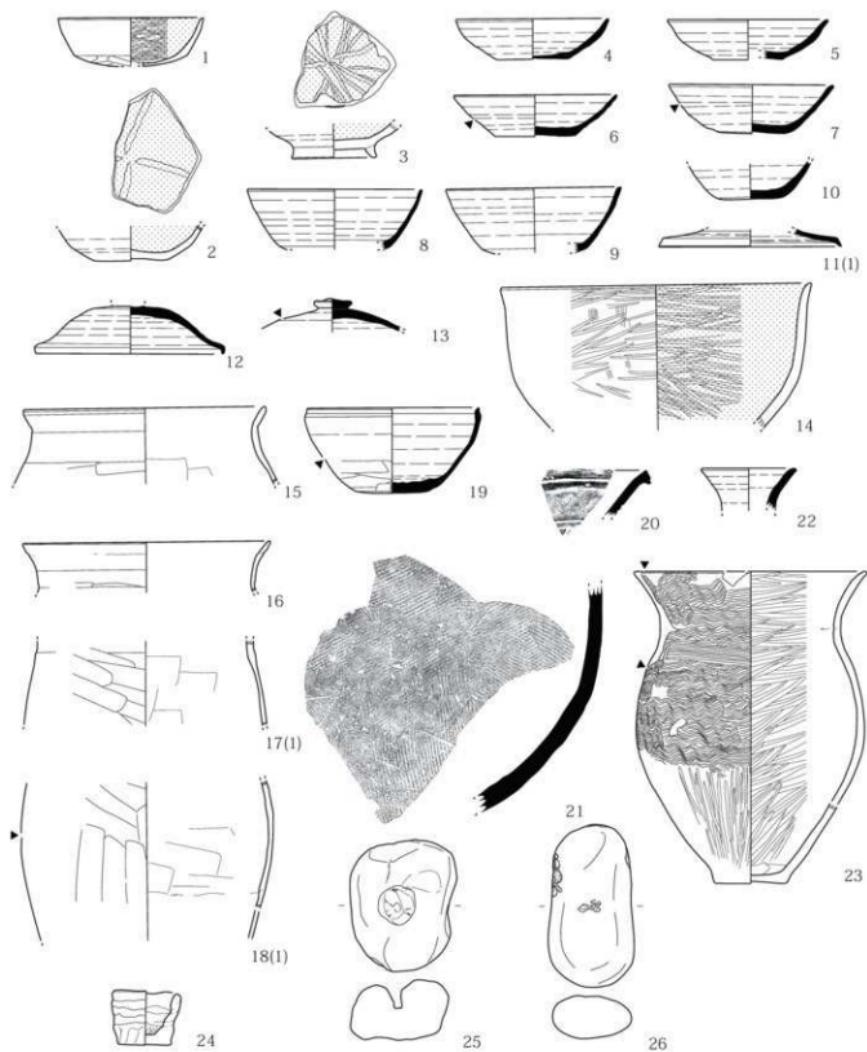
遺物は弥生土器と石器が出土している。弥生土器は全て後期箱清水式期のものである。器種的には甕・壺・手捏が認められる。甕は頸部文様帶の簾状文は同じであるが、口縁部と体部に櫛描波状文を



第41図 ピット(2)



第42図 根々井居屋敷遺跡全体図



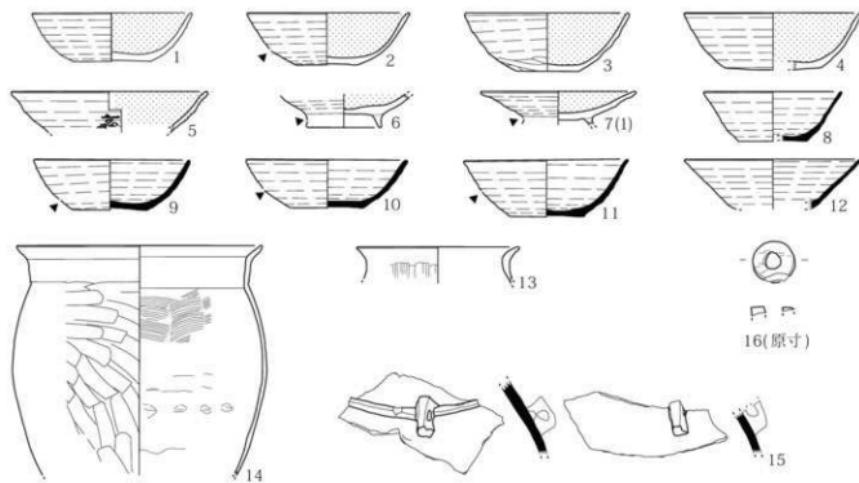
第43図 H1号住居址出土遺物



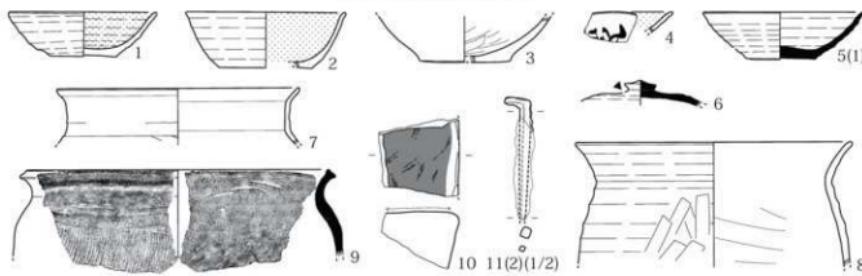
第45図 H3号住居址出土遺物



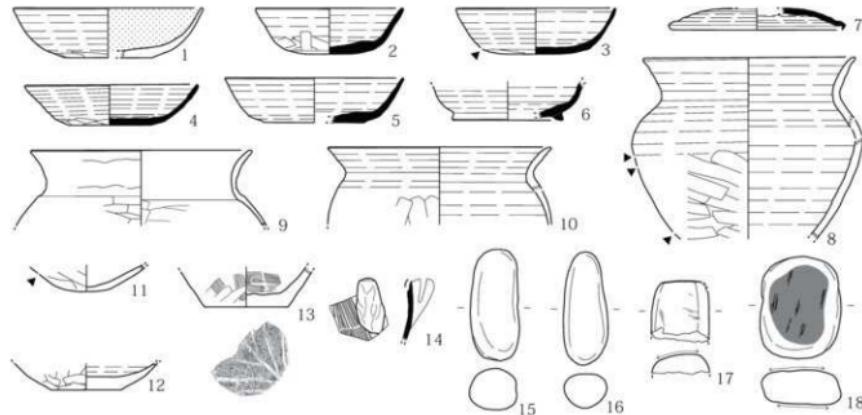
第47図 H5号住居址出土遺物



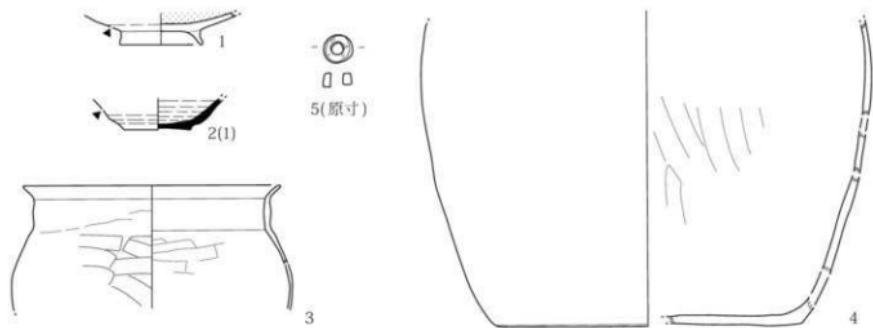
第44図 H2号住居址出土遺物



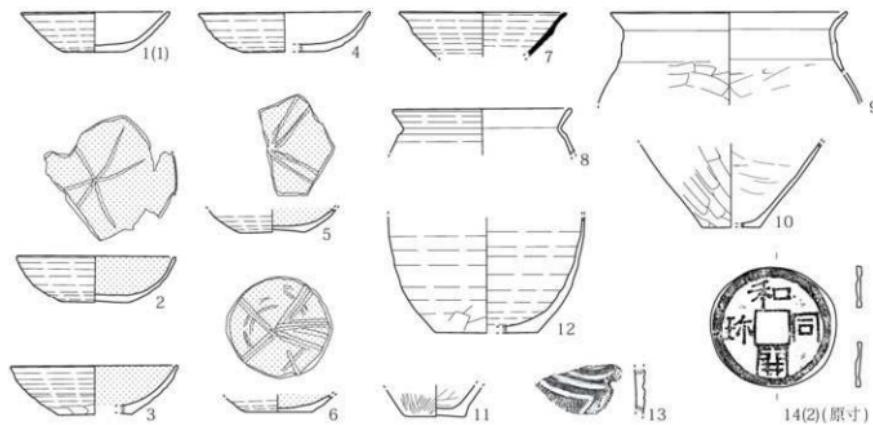
第46図 H4号住居址出土遺物



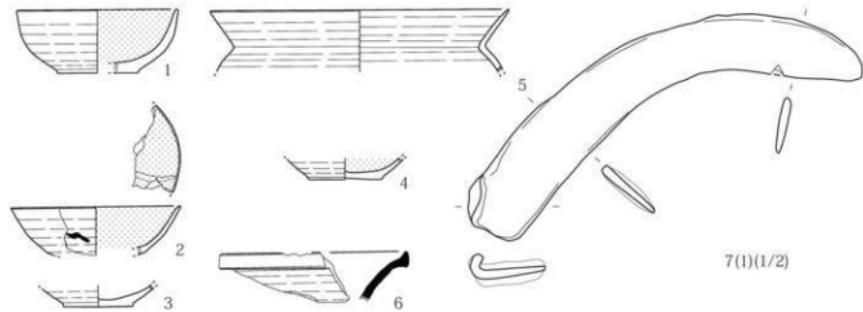
第48図 H6号住居址出土遺物



第49図 H8号住居址出土遺物



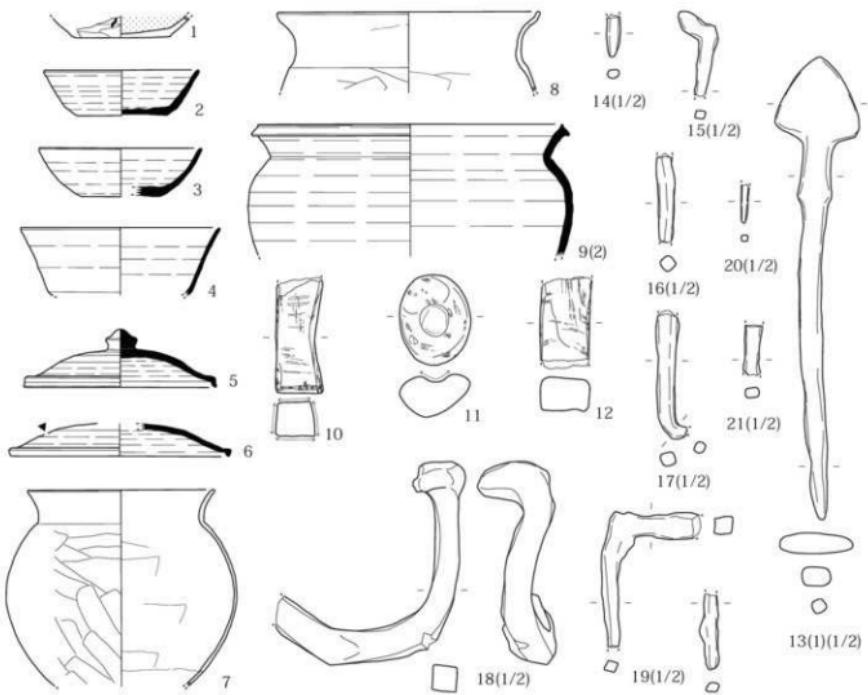
第50図 H9号住居址出土遺物



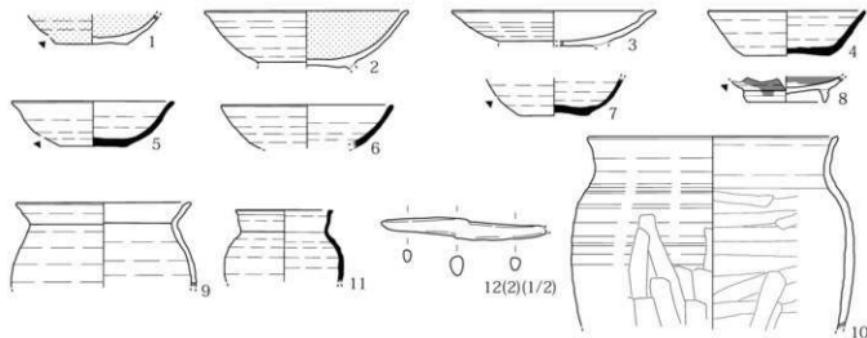
第52図 H11号住居址出土遺物



第53図 H12号住居址出土遺物



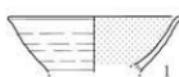
第51図 H10号住居址出土遺物



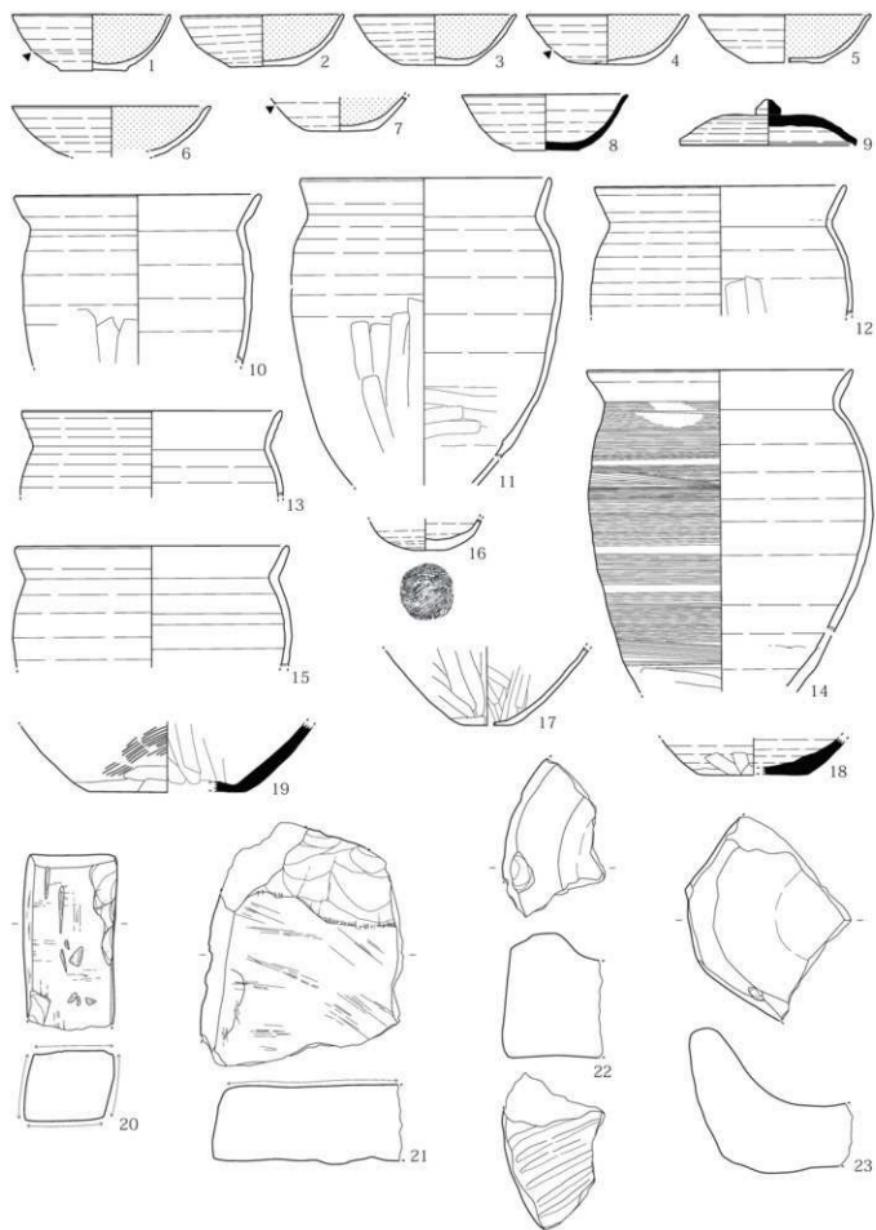
第55図 H14号住居址出土遺物



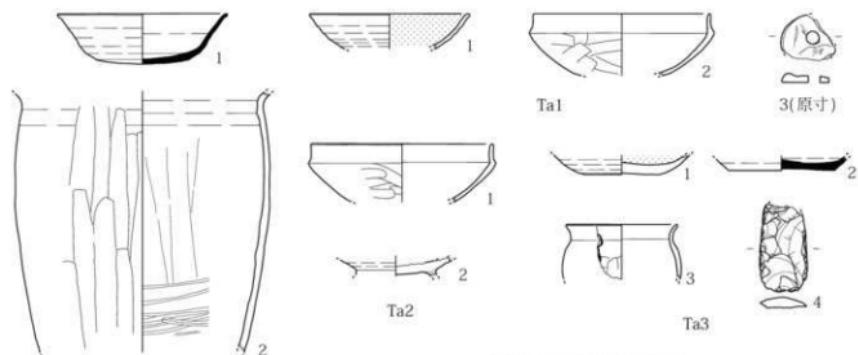
第56図 H15号住居址出土遺物



第58図 H17号住居址出土遺物

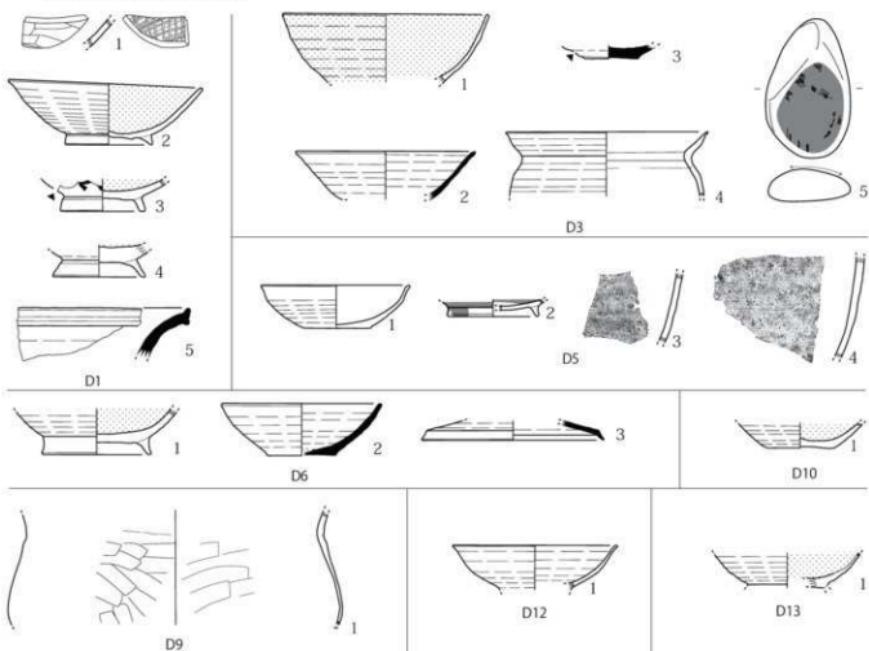


第 54 図 H13 号住居址出土遺物

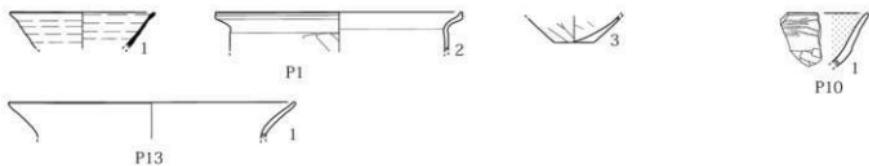


第57図 H16号住居址出土遺物

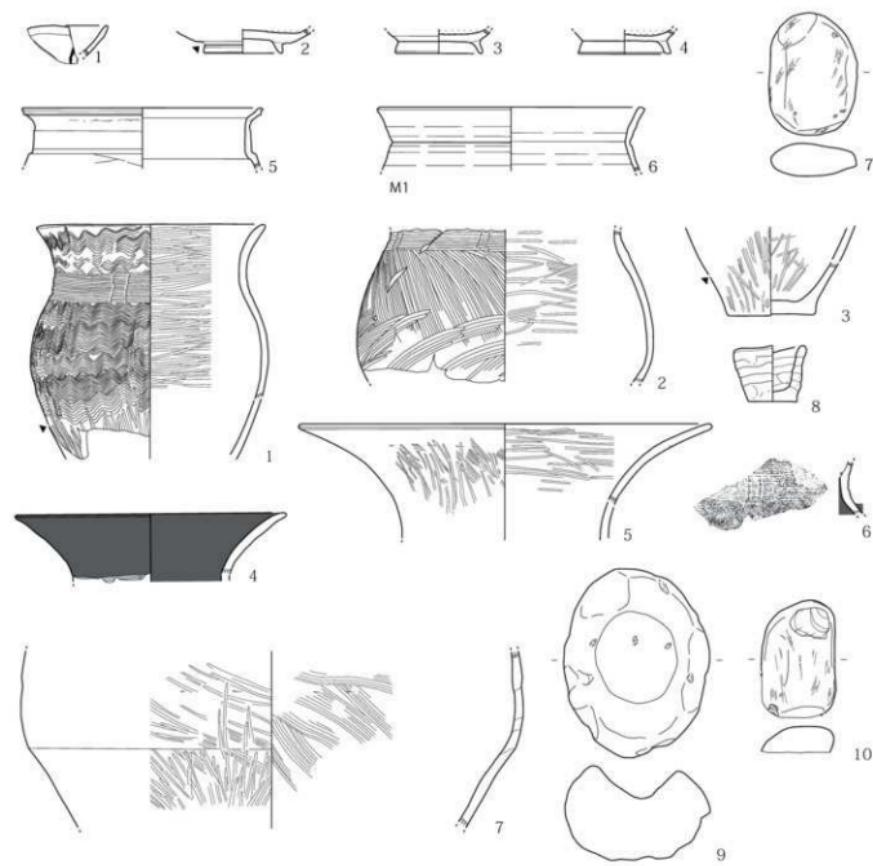
第59図 積穴建物址出土遺物



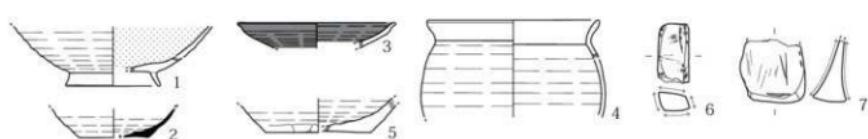
第59図 積穴建物址出土遺物



第62図 ピット出土遺物



第 61 図 溝址出土遺物



第 63 図 道構外出土遺物

住居計測表

通構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	ビット	付属施設	備考	時期
H 1	H7・8、D6、M2を切る。	N-10°-W	-	5.48	0.29	-	(14)	カマド	-
H 2	H11を切る	N-90°-E	(4.27)	3.61	0.23	-	(2)	カマド	-
H 3	-	-	-	-	0.31	-	-	-	-
H 4	D1、M1に切られる	N-0°-W	4.91	4.87	0.18	-	(14)	カマド	-
H 5	M2を切る	N-16°-E	6.25	-	0.30	-	(2)	カマド	-
H 6	H13に切られ、F1を切る	N-0°-W	6.63	6.29	0.34	-	(15)	カマド、礎石 建て替え	-
H 7	H1に切られる	-	-	-	0.25	-	-	-	-
H 8	M2を切る	-	-	-	0.16	-	(3)	-	-
H 9	H11を切る	N-0°-W	3.79	3.54	0.07	-	(3)	-	-
H 10	H17・15を切る	N-10°-W	6.55	6.36	0.36	36.84	(5)	カマド	建て替え
H 11	H9・12に切られる	N-5°-E	3.76	3.54	0.13	-	カマド	-	-
H 12	-	N-79°-W	3.71	3.36	0.13	11.01	(2)	カマド	-
H 13	H6を切る	N-3°-E	3.33	-	0.18	-	-	カマド	-
H 14	H16を切る	-	-	-	0.30	-	-	-	-
H 15	H10に切られる	-	-	-	0.35	-	-	-	-
H 16	H14に切られる	-	-	-	0.16	-	-	-	-
H 17	H10に切られる	-	-	-	0.09	-	-	-	-

第六建物計測表

通構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	ビット	付属施設	備考	時期
Ta 1	Ta 2を切る	-	-	-	0.21	-	-	-	-
Ta 2	Ta 1に切られる	-	-	-	0.18	-	-	-	-
Ta 3	D2に切られ、D8・9を切る	N-4°-E	2.64	-	0.28	-	-	-	-

独立柱建物計測表

通構名	重複関係	長軸方位	柱行長	梁間長	面積	柱直径	柱行柱間寸法	梁間柱間寸法	備考
F 1	H6・13に切られる	N-80°-W	4.22	3.53	1.488	-	1.30～1.55	1.73～1.80	-
F 2	-	N-84°-E	-	3.70	-	-	-	1.64～2.06	-

土坑計測表(1)

通構名	重複関係	平面形状	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備考
D 1	H4を切り、M1に切られる	楕円形	N-43°-W	1.31	1.23	0.62	0.26	-
D 2	Ta3、D7を切る	楕円形	N-10°-E	0.93	0.81	0.22	0.48	-

统计测验(2)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁厚高	面積	備考
D 3	—	不整形	N - 0° - E	2.15	—	0.15	—	—
D 4	—	長方形	N - 11° - E	1.19	0.76	0.22	0.54	—
D 5	M1に切られる	輪円形	N - 0° - E	2.83	2.19	0.23	—	ピット2基
D 6	H1に切られる	輪円形	—	—	1.20	0.30	—	—
D 7	M1に切られる	輪円形	N - 10° - E	1.19	—	0.17	—	—
D 8	Ta3、D2に切られる	長方形	N - 80° - W	1.53	0.76	0.25	—	—
D 9	Ta3、D2・8に切られる	長方形	N - 90° - E	—	1.75	0.08	—	—
D 10	—	輪円形	N - 11° - E	0.94	0.79	0.20	0.34	—
D 11	—	長方形	N - 31° - E	0.81	0.50	0.28	0.13	—
D 12	—	輪円形	N - 18° - E	0.85	0.49	0.16	0.19	—
D 13	—	不整形	N - 86° - E	2.85	0.92	0.11	1.34	—

ヒット計測表

遺傳子名	重複関係			重複関係			備考
	平面形態	長軸長	短軸長	種孔高	平面形態	長軸長	短軸長
P 1	—	—	—	0.21	10938/2, 10936/6 穴±R.	P 10	P7に切られる
P 2	—	梢円形	0.36	0.22	0.15 10938/2, 10936/6 穴.	P 11	—
P 3	—	梢円形	0.31	0.23	0.12 10938/4.6 穴.	P 12	—
P 4	—	梢円形	0.53	0.26	0.30 10938/2, 10934/2.6 穴少々.	P 13	—
P 5	—	梢円形	0.59	0.52	0.36 10938/2.6 穴少々.	P 14	—
P 6	—	梢円形	0.39	0.24	0.28 10938/2.6 穴少々.	P 15	M1に切られる
P 7	M2に切られる	梢円形	0.32	0.25	0.28 10938/2.6 穴少々.	P 16	H1に切られる
P 8	M2に切られる	梢円形	0.43	0.23	0.20 10938/2.6 穴少々.	P 17	H4に切られる
P 9	—	梢円形	0.73	0.64	0.18 10938/2.6 穴少々.		

H 1号住居址出土遺物觀察表

No.	器種	形	口径(mm)	底径(短)	法(短)	量(重)	内面	背面	成形・調整		備考	出土層位	
									重量等	ヘラクイズ1			
1	土鍋器	坪	(12.0)	(9.2)	器底	(4.0)	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	I区	
2	土鍋器	坪	-	(6.0)	<2.8>	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	ケン	
3	土鍋器	輪	-	(7.0)	<2.8>	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	ケン	
4	須恵器	坪	(12.6)	(6.0)	(3.3)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区	
5	須恵器	坪	(13.2)	(5.8)	(3.3)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	III区	
6	須恵器	坪	(13.5)	(6.6)	3.4	-	火槽	火槽	右回転系切	右回転系切	完全尖端	III区	
7	須恵器	坪	(13.6)	(6.0)	4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	III区	
8	須恵器	坪	(14.4)	-	<5.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	III区	
9	須恵器	坪	(14.4)	-	<5.4>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	III区	
10	須恵器	坪	-	(5.8)	<3.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区	
11	須恵器	坪底	(13.6)	-	<1.5>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	No.1	
12	須恵器	坪蓋	14.9	-	<4.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区	
13	須恵器	坪蓋	-	-	<2.7>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区	
14	土鍋器	鉢	(25.6)	-	<11.9>	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全尖端	II区	
15	土鍋器	鉢	(20.0)	-	<6.4>	-	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	完全尖端	III区	
16	土鍋器	鉢	(20.4)	-	<4.1>	-	ナデ	ナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	完全尖端	III区	
17	土鍋器	鉢	-	-	<6.9>	-	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	完全尖端	No.1	
18	土鍋器	鉢	-	-	<13.7>	-	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	完全尖端	No.1	
19	須恵器	鉢	(14.2)	(6.0)	7.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	底部・周縁へラケズリ	底部・周縁へラケズリ	完全尖端	VI区	
20	須恵器	鉢	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	底部・周縁へラケズリ	底部・周縁へラケズリ	完全尖端	VI区	
21	須恵器	鉢	-	-	-	-	当周縁	当周縁	底部・周縁へラケズリ	底部・周縁へラケズリ	完全尖端	VI区	
22	須恵器	平盤	(7.8)	-	<3.5>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	底部・周縁へラケズリ	底部・周縁へラケズリ	完全尖端	VI区	
23	弥生土器	甕	19.2	6.0	25.7	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全尖端	VI区・M2	
24	弥生土器	手凹土器	5.6	4.4	4.5	-	ナデ	ナデ	底部・周縁へラケズリ	底部・周縁へラケズリ	完全尖端	P2	
25	石器	凹石	10.8	8.8	5.5	498.5	四面2.2×3.0、凹深2.2	ナデ	ナデ	底部・周縁へラケズリ	底部・周縁へラケズリ	完全尖端	III区
26	石器	輪狀石	13.4	7.2	3.8	478.0	斜辺2.2×3.0、凹深2.2	ナデ	ナデ	底部・周縁へラケズリ	底部・周縁へラケズリ	完全尖端	III区

H 2号住居址出土遺物觀察表(1)

No.	器種	形	口径(短)	底径(短)	法(短)	量(重)	内面	背面	成形・調整		備考	出土層位
									重量等	右回転系切		
1	土鍋器	坪	(13.2)	(6.4)	4.0	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
2	土鍋器	坪	(13.4)	(5.0)	4.3	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
3	土鍋器	坪	13.5	5.0	4.8	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	P1
4	土鍋器	坪	(14.6)	(8.0)	4.7	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	ケン
5	土鍋器	坪	(16.2)	-	<3.4>	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
6	土鍋器	輪	-	(6.0)	<2.8>	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
7	土鍋器	輪	12.8	-	<2.8>	-	ヘラミガキ・黒色刷印	ヘラミガキ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
8	須恵器	坪	(11.4)	(5.6)	4.1	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
9	須恵器	坪	(12.9)	(6.0)	4.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
10	須恵器	坪	(13.3)	(5.9)	4.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
11	須恵器	坪	(13.6)	(6.1)	4.7	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区
12	須恵器	坪	(14.6)	-	<4.1>	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転系切	右回転系切	完全尖端	II区

H.2号住居跡出土遺物解説表(2)

No	器種	器形	口径(外)	法	底径(内)	底高(厚)	重量	内面	背面	成形・調整	備考	出土層位
13	土鍋器	甌(東洋系)	(1.3)	一	-	-	-	ナデ	ハラケズリ	回転・丸削	回転・丸削	Ⅲ区・P1
14	土鍋器	武藏燒	(2.0)	一	<18.9>	-	ナデ	ハラケズリ	回転・丸削	回転・丸削	Ⅳ区・P1	
15	須恵器	小口三足炉(火鉢)	-	-	-	-	ナデ	ナデ	回転・丸削	回転・丸削	Ⅳ区・P1	
16	石製品	臼玉	<0.90>	<0.85>	<0.25>	<0.22>	孔径0.35、下部-裏面欠損	ナデ	ヘラケズリ	完全丸削	完全丸削	Ⅲ区

H.3号住居跡出土遺物解説表

No	器種	器形	口径(外)	法	底径(内)	底高(厚)	重量	内面	背面	成形・調整	備考	出土層位
1	須恵器	有手杯	-	-	(14.0)	<1.4>	-	ロクロナデ	ロクロナデ+付高台	回転・丸削	ケン	Ⅱ区
2	土鍋器	甌	-	-	(5.0)	<2.5>	-	ヘラナデ	ヘラナデ	回転・丸削	丸土	Ⅱ区

H.4号住居跡出土遺物解説表

No	器種	器形	口径(外)	法	底径(内)	底高(厚)	重量	内面	背面	成形・調整	備考	出土層位
1	土鍋器	片	12.2	一	5.4	3.7	-	黒色処理	右側底糞用	完全丸削	Ⅰ区・ホリ	
2	土鍋器	环	(13.2)	一	(7.6)	4.6	-	ヘラミガキ→黒色処理	回転系切	Ⅱ区		
3	土鍋器	环	-	-	(7.4)	<3.8>	-	ヘラナデ	回転・丸削	Ⅲ区・ホリ		
4	土鍋器	皿	-	-	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	墨書き	Ⅰ区		
5	須恵器	环	(13.2)	一	5.7	3.9	-	ロクロナデ	右側底糞切	完全丸削	No1	
6	須恵器	蓋	-	-	-	<2.1>	-	ロクロナデ	回転・ヘラケズリ、つまみ取付	完全丸削	カマド・ケン・トウ	
7	土鍋器	武藏焼	(20.0)	一	-	<4.7>	-	ヘラケズリ	完全丸削	カマド・ケン・トウ	Ⅰ区・ホリ	
8	土鍋器	甌	(22.8)	一	<10.3>	-	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸削	Ⅰ区・ホリ	
9	須恵器	甌	(24.8)	一	<7.2>	-	当貝缺	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸削	Ⅰ区	
10	石器	角白	<6.4>	<4.6>	<29.0>	右側以外欠損、削り	1	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸削	ケン	Ⅰ区
11	瓦製品	角釘	<10.1>	<1.0>	<0.7>	<36.0>	先端欠損	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸削	No2	Ⅰ区・ホリ

H.5号住居跡出土遺物解説表

No	器種	器形	口径(外)	法	底径(内)	底高(厚)	重量	内面	背面	成形・調整	備考	出土層位
1	土鍋器	环	(11.2)	一	4.3	-	ヘラミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ→ハミガキ	ヘラケズリ	回転・丸削	Ⅰ区・ホリ	
2	土鍋器	甌	(13.6)	<2.2>	-	-	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸削	Ⅰ区・ホリ	

H.6号住居跡出土遺物解説表(1)

No	器種	器形	口径(外)	法	底径(内)	底高(厚)	重量	内面	背面	成形・調整	備考	出土層位
1	土鍋器	环	(15.6)	一	4.1	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	ヘラケズリ	完全丸削	Ⅰ区・ホリ	
2	須恵器	环	(12.2)	一	3.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	完全丸削	Ⅰ区・ホリ	
3	須恵器	环	(13.1)	一	3.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	完全丸削	Ⅲ区・ホリ	
4	須恵器	环	14.3	一	3.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	完全丸削	Ⅰ区・ホリ	
5	須恵器	环	(14.8)	一	3.7	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	完全丸削	Ⅰ区・ホリ	

H.6号住居跡出土遺物解説表(2)

H 6 号住居址出土遺物觀察表(2)

No	器種	形	口径(縦)	法	量(厚)	重量等	内	外	面	備考	出土層位
6	須臾器	有台盤	(9.0)	-	<3.2-	-	ロクロナデ	付高台	回転ヘラケズリ	Ⅱ・Ⅲ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(ホリ)、ケン
7	須臾器	盤	(14.0)	-	<1.8-	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	トドロナデ	Ⅰ・Ⅲ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(ホリ)、ケン
8	土鍋器	口クロ黒	17.5	-	(15.0)	-	ロクロナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅲ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(ホリ)、ケン
9	土鍋器	武藏燒	(18.2)	-	<6.2-	-	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅲ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(ホリ)、ケン
10	土鍋器	口クロ黒	(18.2)	-	<6.1>	-	曳行着	曳行着、下部ヘラケズリ	ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅲ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(ホリ)、ケン
11	土鍋器	武藏燒	-	-	4.0	<2.2>	-	ナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)
12	土鍋器	口クロ黒	-	-	(5.8)	<2.2-	-	曳行着	ヘラケズリ	ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)
13	土鍋器	裏	-	-	(6.8)	<3.3>	-	ハナ日	ハナナデ、木葉鉢	回転ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)
14	須臾器	四耳壺	-	-	-	-	ナデ	耳上部に穿孔	平行開口	完全火照	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)
15	石器	輪物石	9.2	4.1	3.4	198.0	-	-	-	完全火照	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)
16	石器	輪物石	9.3	3.7	2.9	128.9	-	-	-	完全火照	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)
17	石器	磨石	<5.1>	<4.8>	<1.8>	<51.4>	下面～裏面欠損、磨面	1	-	完全火照	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)
18	石器	磨石	8.4	6.7	3.2	269.0	前面	2	-	完全火照	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)

H 8 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	形	口径(縦)	法	量(厚)	重量等	内	外	面	備考	出土層位
1	土鍋器	环	-	-	6.6	<2.6-	-	ヘラミガナ	黒色處理	完全火照	Ⅰ・Ⅲ
2	土鍋器	环	-	-	5.5	<2.6-	-	ロクロナデ	ヘラミガナ	完全火照	No1
3	土鍋器	武藏燒	(21.2)	-	<10.3-	-	ロクロナデ	ヘラミガナ	ヘラミガナ	完全火照	Ⅰ・Ⅲ(ホリ)
4	土鍋器・土器	裏	-	(25.4)	<25.1-	-	ヘラナデ	ナデ	ヘラミガナ	完全火照	Ⅰ・Ⅲ
5	石製品	臼玉	0.55	0.55	0.25	0.12孔φ 0.25	-	-	-	完全火照	Ⅰ・Ⅲ

H 9 号住居址出土遺物觀察表

No	器種	形	口径(縦)	法	量(厚)	重量等	内	外	面	備考	出土層位
1	土鍋器	环	12.3	5.0	3.3	-	付付着	右回転系切	裏付着	完全火照	No1
2	土鍋器	环	(3.1)	5.5	3.8	-	付付着	右回転系切	裏付着	完全火照	付・ケン
3	土鍋器	环	(13.8)	(6.0)	(4.0)	-	ナデ	ヘラミガナ	ヘラミガナ	完全火照	カクラシ
4	土鍋器	环	(14.2)	(6.8)	(3.2)	-	ナデ	ヘラミガナ	ヘラミガナ	完全火照	ケン
5	土鍋器	环	-	(5.2)	<1.9-	-	ナデ	ヘラミガナ	ヘラミガナ	完全火照	ケン
6	土鍋器	环	-	5.5	<1.4-	-	ナデ	ヘラミガナ	ヘラミガナ	完全火照	ケン
7	須臾器	环	(13.8)	-	<3.7-	-	火槽	ロクロナデ	ロクロナデ	完全火照	ケン
8	土鍋器	口クロ黒	(14.8)	-	<3.8-	-	ナデ	ヘラミガナ	ヘラミガナ	完全火照	ケン
9	土鍋器	武藏燒	(19.4)	-	<7.7-	-	ナデ	ヘラミガナ	ヘラミガナ	完全火照	ケン・カクラシ
10	土鍋器	武藏燒	-	(4.6)	<6.9-	-	ナデ	ヘラミガナ	ヘラミガナ	完全火照	ケン・カクラシ
11	土鍋器	裏	-	4.8	<2.6-	-	ナデ	ロクロナデ	ヘラミガナ	完全火照	ケン
12	土鍋器	口クロ黒	-	(8.2)	<9.5-	-	ナデ	ロクロナデ	ヘラミガナ	完全火照	ケン
13	歩引器	轆轤	-	-	-	-	-	-	轆轤文、圓文	完全火照	ケン
14	鍛乳器	轆轤	2.5	-	-	0.1	2.0	[和田開跡]	-	完全火照	No2

H10号住居跡出土遺物調査表

No	器種	器形	口径(奥)	法	底径(短)	高さ(短)	量	重量等	内	外	面	備考		出土層位
												内	外	
1	土鍋器	平	—	(8.0)	<1.9>	—	—	—	ヘラミガナ・黑色處理	ロクロナデ・墨	ロクロナデ・墨	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	Ⅱ区
2	須恵器	环	(12.8)	(7.4)	3.8	—	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	Ⅱ区
3	須恵器	环	(13.4)	(6.4)	(4.0)	—	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	Ⅱ区
4	須恵器	有台环	(16.5)	—	<5.6>	—	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ロクロナデ・火燐鉢	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	Ⅱ・Ⅲ区(ケン)
5	須恵器	环	(16.4)	—	4.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	W区
6	須恵器	环	14.8	—	<2.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	Ⅰ・Ⅲ区(ケン)
7	土鍋器	武藏燒	(15.4)	—	<16.2>	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	Ⅰ・Ⅲ区(ケン)
8	土鍋器	武藏燒	(21.6)	—	<6.7>	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	Ⅰ・Ⅲ区(ケン)
9	須恵器	環	(25.0)	—	<10.9>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	No2
10	石器	砥石	—	<3.9>	<3.0>	<187.7mm	—	—	上凹形、圓面數4	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅱ区
11	石器	磨石	7.4	5.9	3.3	58.8	凹面2.6×2.4、凹深0.6、全体に柄、輕石製	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅱ区
12	石器	磨石	<7.5>	<4.3>	<2.9>	<178.3mm	前面欠損、全体に削	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅱ区(ホリ)
13	鍔器	劍頭飾	19.1	3.5	0.85	41.8	削離れて本体より脱落	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅲ区 No1
14	鍔器	角釘	<1.8>	<0.5>	<0.5>	<-6.0>	—	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	ケン
15	鍔器	角釘	<3.5>	<2.0>	<0.6>	<4.9>	前面欠損	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅰ区
16	鍔器	角釘	<3.6>	<0.6>	<0.6>	<3.4>	前面欠損	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	ケン
17	鍔器	角釘	<5.3>	<0.8>	<0.8>	<6.4>	前面欠損	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅳ区
18	鍔器	角釘	<8.3>	頭部1.5	1.0	<65.2>	先端欠損、折れ曲がる	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅰ区
19	鍔器	輪	<5.6>	輪1.0	1.0	<1.1>	<0.9>	<13.1>	前面欠損、上部欠損か、同一個体か	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅰ区
20	鍔器	輪	<3.1>	<0.6>	<0.5>	<1.6>	<0.3>	<0.3>	前面欠損、上部欠損	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅰ区
21	鍔器	角釘	<1.6>	<0.3>	<0.3>	<1.43>	前面欠損	<0.5>	<0.5>	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅰ区

H11号住居跡出土遺物調査表

No	器種	器形	口径(奥)	法	底径(短)	高さ(短)	量	重量等	内	外	面	備考		出土層位	
												内	外		
1	土鍋器	环	(13.2)	(6.6)	(5.2)	—	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	回転式切削	W区(ホリ)	Ⅱ区	
2	土鍋器	环	(14.0)	—	<6.0>	—	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	回転式切削	W区	Ⅱ区	
3	土鍋器	环	—	(5.6)	<1.8>	—	ナデ	ナデ	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	回転式切削	H11内ガクラシ	ケン	
4	土鍋器	环	—	(6.0)	<1.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転式切削	W・E区	Ⅱ区	
5	須恵器	口フロベ	(24.6)	—	<5.2>	—	自然釉和苔	自然釉和苔	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	W区(ホリ)	Ⅱ区
6	須恵器	環	—	—	—	—	自然釉和苔	自然釉和苔	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	W区(ホリ)	Ⅱ区
7	須恵器	環	17.3	2.9	0.35	70.9	丸形縫	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	No1	Ⅱ区

H12号住居跡出土遺物調査表

No	器種	器形	口径(奥)	法	底径(短)	高さ(短)	量	重量等	内	外	面	備考		出土層位	
												内	外		
1	土鍋器	环	(12.4)	(5.6)	(5.3)	—	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	回転式切削	W区(ホリ)	Ⅱ区	
2	土鍋器	环	(13.6)	—	5.0	—	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	回転式切削	W区(ホリ)	ケン	
3	土鍋器	环	—	(6.4)	<2.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	ヘラミガナ・黑色處理	回転式切削	H12内ガクラシ	ケン	
4	須恵器	环	(14.4)	(6.4)	(4.8)	<4.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転式切削	W・E区	Ⅱ区
5	須恵器	环	(14.4)	—	—	—	—	—	—	—	—	完全洗浄	完全洗浄	Ⅱ区	Ⅱ区

H 13 号住居出土遺物目録表

No	器種	形	法 口径 (mm) 底径 (mm)	器高 (mm)	量 重量 (g)	内 面 裏面等	成 形・調 整	外 面	備 考	出土層位	
1	土鍋器	环	(13.0)	5.5	4.6	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド	
2	土鍋器	环	13.4	5.6	4.2	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
3	土鍋器	环	13.4	5.7	4.2	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
4	土鍋器	环	(13.4)	6.4	4.1	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
5	土鍋器	环	(14.2)	(6.6)	(4.0)	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	回転丸削 回転丸削	E・E(区)リ
6	土鍋器	环	(16.4)	—	<4.2>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	回転丸削 回転丸削	カマド
7	土鍋器	环	—	6.0	<2.9>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
8	須恵器	环	13.6	5.5	4.6	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
9	須恵器	环	(13.8)	—	3.8	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
10	土鍋器	口フロ既	(20.4)	—	<14.0>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
11	土鍋器	口フロ既	(20.7)	—	<25.4>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
12	土鍋器	口フロ既	(20.8)	—	<10.7>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
13	土鍋器	口フロ既	(21.4)	—	<7.1>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド・E(区)ケン
14	土鍋器	口フロ既	21.9	—	<24.6>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド・E(区)
15	土鍋器	口フロ既	(22.6)	—	<10.0>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	W(区)
16	土鍋器	口フロ既	—	4.3	<2.6>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	E(区)
17	土鍋器	武藏既	—	(4.4)	<6.4>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削 完全丸削	カマド
18	須恵器	甕	—	(9.2)	<3.1>	—	ロクロナデ	底部・周縁へラケヅリ、凹凸	底部・周縁へラケヅリ、凹凸	完全丸削 完全丸削	カマド
19	須恵器	甕	—	(13.2)	<5.7>	—	ヘラナデ	下腹及 底面数4、正面に条縞	底部・周縁へラケヅリ、凹凸	完全丸削 完全丸削	カマド
20	石器	砥石	<7.2>	<3.9>	<3.0>	<142.6>	下腹及 底面数4、正面に条縞	底部・周縁へラケヅリ、凹凸	完全丸削 完全丸削	W(区)	
21	石器	食合	<20.0>	<16.7>	<6.8>	<3360.0>	右側へ側欠損、斜面崩1	底部・周縁へラケヅリ、凹凸	完全丸削 完全丸削	覆土	
22	石製品	臼(上臼)	<13.0>	<8.5>	<10.5>	<1180.0>	約26.0、約1/8残存	H13を切るカクラン	H13を切るカクラン	H13を切るカクラン	
23	石製品	搗臼	<16.8>	<13.7>	<12.3>	<1760.0>	右側欠損	右側欠損	完全丸削 完全丸削	完全丸削 完全丸削	

H 14 号住居出土遺物目録表

No	器種	形	法 口径 (mm) 底径 (mm)	器高 (mm)	量 重量 (g)	内 面 裏面等	成 形・調 整	外 面	備 考	出土層位	
1	土鍋器	环	—	6.0	<2.4>	—	クロコナデ、黒色處理	クロコナデ、黒色處理	完全丸削	覆土	
2	土鍋器	环	(16.8)	—	<4.8>	—	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	ヘラミガチ 黒色處理	完全丸削	覆土
3	土鍋器	环	(16.8)	—	<2.9>	—	クロコナデ	クロコナデ、高台欠損	完全丸削	ホリ	
4	須恵器	环	(13.0)	(7.2)	3.7	—	クロコナデ	火燒痕	完全丸削	ケン	
5	須恵器	环	(13.4)	5.5	3.7	—	クロコナデ	火燒痕	完全丸削	ケン	
6	須恵器	环	(14.2)	—	<3.6>	—	クロコナデ	火燒痕	完全丸削	覆土	
7	須恵器	环	—	5.9	<3.1>	—	クロコナデ	火燒痕	完全丸削	ホリ	
8	灰陶陶器	碗	—	6.5	<2.1>	—	クロコナデ	施釉	完全丸削	覆土	
9	土鍋器	甕	(14.4)	—	<7.0>	—	クロコナデ	クロコナデ	完全丸削	覆土	
10	土鍋器	甕	(20.6)	—	<15.9>	—	クロコナデ	ヘラケヅリ	完全丸削	覆土	
11	須恵器	甕	(8.0)	—	<6.0>	—	クロコナデ	ヘラケヅリ	完全丸削	覆土	
12	鍛器	刀子	<13.6>	1.6	1.0	<31.0>	前縁欠損、鋸歯化を有する刃	完全丸削	No2		

H 15 男性居間出土土器類観察表

No	器種	器形	口径(奥)	底径(短)	高さ(短)	量	成形・調整	外	面	備考	出土層位
1	須恵器	环	—	—	<2.0>	重量等	ロクロナナデ	ロクロナナデ	平行凹凸目	破片・丸削・切石本	N区
2	須恵器	壺	—	—	—	—	当頸部	—	—	破片・丸削・切石本	S区

H 16 男性居間出土土器類観察表

No	器種	器形	口径(奥)	底径(短)	高さ(短)	量	成形・調整	外	面	備考	出土層位
1	須恵器	环	(14.0)	(7.6)	4.2	—	クロロナナデ	内面	面	回転式丸削	面土・覆土
2	土師器	口フタ裏	—	—	<21.5>	—	ヘラナナデ・ヘラミガキ	ヘラケズリ	—	回転式丸削	覆土・覆土下

H 17 男性居間出土土器類観察表

No	器種	器形	口径(奥)	底径(短)	高さ(短)	量	成形・調整	外	面	備考	出土層位
1	土師器	施	(14.2)	—	<4.6>	—	ヘラミガキ・黒色處理	高台欠損	面	回転式丸削	1区
2	土師器	环	(13.2)	(15.2)	<2.9>	重量等	内面	面	面	回転式丸削	Ta1 開土
3	土師器	白土	<1.0>	<1.0>	<5.1>	—	ヘラミガキ・黒色處理	ロクロナナデ	ヘラケズリ	回転式丸削	Ta1 開土
4	土師器	白土	(14.6)	(11.0)	<0.25>	<0.36>	内径 0.25、身 1/3欠損	—	—	回転式丸削	Ta1 開土
5	土師器	白土	(15.0)	(15.4)	<4.8>	—	ヘラミガキ	内面	面	回転式丸削	Ta2 開土
6	土師器	台付壺	—	—	<1.7>	—	粘膜	—	—	回転式丸削	Ta3W区
7	土師器	环	—	(7.0)	<1.6>	—	ヘラミガキ・黒色處理	内面	面	回転式丸削	Ta3 ケン
8	土師器	环	—	(8.8)	<1.2>	—	ロクロナナデ	内面	面	回転式丸削	Ta3 ケン
9	土師器	施	(9.2)	—	<4.5>	—	ナナデ・墨書き?	ヘラケズリ	—	完全丸削	Ta3 ケン
10	石器	打製石斧	<7.2>	<4.0>	<0.9>	<34.7>	基部欠損	—	—	完全丸削	Ta3 ケン

ビット出土遺物観察表

No	器種	器形	口径(奥)	底径(短)	高さ(短)	量	成形・調整	外	面	備考	出土層位
1	須恵器	环	(12.0)	—	<3.0>	重量等	内面	面	ロクロナナデ	ロクロナナデ	P1
2	土師器	武藏燒	(20.4)	—	<3.3>	—	ナナデ	—	ヘラケズリ	回転式丸削	P1
3	土師器	武藏燒	—	(3.2)	<2.2>	—	ナナデ	—	ヘラケズリ	回転式丸削	P1
4	土師器	环	—	—	—	—	ヘラミガキ・黒色處理	ロクロナナデ	高台欠損	ロクロナナデ	P10
5	土師器	武藏燒	(23.6)	—	<3.0>	—	ナナデ	—	—	回転式丸削	P13

土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(厘米)	法 盤徑(厘米)	法 盤深(厘米)	重量 (克)	重量 (克)	重量等	内 面	外 面	備考	出土部位
1	土鉢器	环	-	-	-	-	-	-	ヘラミガキ-黒色處理	ヘラミガキ-黒色處理	完全美則	D1 魚土
2	土鉢器	桶	16.0	7.2	5.1	-	-	-	ロクロナデ-墨書、圓點系切+付高台	ロクロナデ-墨書、圓點系切+付高台	完全美則	D1 魚土
3	土鉢器	桶	-	7.0	<2.7>	-	-	-	ロクロナデ-墨書、圓點系切+付高台	ロクロナデ-墨書、圓點系切+付高台	完全美則	D1 魚土
4	土鉢器	桶	-	7.6	<2.7>	-	-	-	ロクロナデ-墨書、圓點系切+付高台	ロクロナデ-墨書、圓點系切+付高台	完全美則	D1 魚土
5	須臾器	甕	-	-	-	-	-	-	ロクロナデ-墨書、圓點系切+付高台	ロクロナデ-墨書、圓點系切+付高台	完全美則	D1 魚土
1	土鉢器	环	(17.0)	-	-	<3.7>	-	-	ヘラミガキ-黒色處理	ヘラミガキ-黒色處理	完全美則	D3 魚土
2	須臾器	环	(14.8)	-	<4.0>	-	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	D3W 区
3	須臾器	环	-	4.8	<1.1>	-	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	D3W 区
4	土鉢器	口クロ甕	(16.6)	-	-	<5.3>	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	D3W 区
5	石器	磨石	11.5	7.0	2.9	-	-	254.0 磨面1	-	-	完全美則	D3W 区
1	土鉢器	环	12.3	5.7	3.6	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	DSE W 区	
2	灰陶陶器	碗	-	(7.6)	<1.4>	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	DSE E 区	
3	土鉢器	甕	-	-	-	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	D5 魚土	
4	土鉢器	甕	-	-	-	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	D5 魚土	
1	土鉢器	桶	-	(9.0)	<3.8>	-	-	ヘラミガキ-黒色處理	ヘラミガキ-黒色處理	完全美則	DGN 区	
2	須臾器	环	(13.2)	(5.6)	(4.3)	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	DGN 区	
3	須臾器	环	(13.6)	-	<1.6>	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	DGN 区	
3	須臾器	环	-	-	<9.4>	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	D9W 地下2・M2	
1	土鉢器	甕	-	(5.6)	<2.7>	-	-	ヘラミガキ-黒色處理	ヘラミガキ-黒色處理	完全美則	D10 魚土	
1	土鉢器	环	(13.6)	-	<3.7>	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	D12 魚土	
1	土鉢器	甕	-	-	<2.9>	-	-	ヘラミガキ-黒色處理	ヘラミガキ-黒色處理	完全美則	D13 魚土	

溝出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(厘米)	法 盤徑(厘米)	法 盤深(厘米)	重量 (克)	重量 (克)	重量等	内 面	外 面	備考	出土部位
1	土鉢器	环	-	-	-	-	-	-	ロクロナデ-墨書	ロクロナデ-墨書	完全美則	M1W K
2	土鉢器	桶	-	6.5	<2.0>	-	-	-	ヘラミガキ-黒色處理	ヘラミガキ-黒色處理	完全美則	M1W K
3	土鉢器	桶	-	(7.2)	<2.0>	-	-	-	ヘラミガキ-黒色處理	ヘラミガキ-黒色處理	完全美則	M1E K
4	土鉢器	桶	-	(7.6)	<2.0>	-	-	-	ヘラミガキ-黒色處理	ヘラミガキ-黒色處理	完全美則	M1E K
5	土鉢器	武藏燒	(19.8)	-	-	<5.0>	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	M1E K
6	土鉢器	口クロ甕	(22.0)	-	-	<5.3>	-	-	ロクロナデ-火筆	ロクロナデ-火筆	完全美則	M1I 魚土
7	石製品	軸承製品	10.0	7.2	-	2.9	-	121.5 个体に割り	-	-	完全美則	M1E K
1	浮生土器	甕	18.8	-	-	<19.4>	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	M2 魚土
2	浮生土器	甕	-	-	-	<12.5>	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	M2 魚土
3	浮生土器	甕	-	6.0	<7.0>	-	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	M2 魚土
4	浮生土器	甕	(22.4)	-	-	<5.0>	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	M2 魚土
5	浮生土器	甕	(34.0)	-	-	<9.6>	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	M2 魚土
6	浮生土器	甕	-	-	-	-	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	M2 魚土
7	浮生土器	甕	-	-	-	<14.5>	-	-	ヘラミガキ-火筆	ヘラミガキ-火筆	完全美則	M2 魚土
8	浮生土器	手提袋	6.0	4.0	4.6	-	-	-	ナデ、見込み?	ナデ、見込み?	完全美則	M2 魚土
9	石器	凹石	15.1	12.1	8.0	-	-	420.0 凹径	420.0 凹径	420.0 凹径	完全美則	M2 魚土
10	石器	磨石	<9.7>	<6.1>	<2.5>	-	-	<218.0> 裏面火痕、全面削り	-	-	完全美則	M2 魚土

No	器種	形	口径(表)	底径(表)	高さ(表)	重量等	内面	背面	外側	成形・調整	備考	出土層位
1	土鍋器	輪	—	(7.6)	<4.9>	—	ハラミキ+側面凹	直軸系切	直軸系切	直軸系切	P6 カクラン	回転実測
2	須恵器	环	—	(5.6)	<2.4>	—	ロクロナフ	直軸系切	直軸系切	直軸系切	P6 カクラン	回転実測
3	灰釉陶器	輪	(13.0)	—	<2.1>	—	ロクロナフ	直軸系切	直軸系切	直軸系切	P6 カクラン	回転実測
4	土鍋器	ロクロ口張	(14.2)	—	<8.0>	—	ロクロナフ	直軸系切	直軸系切	直軸系切	P6 カクラン	回転実測
5	土鍋器	ロクロ口張	—	(8.6)	<2.8>	—	ロクロナフ	直軸系切	直軸系切	直軸系切	P6 カクラン	回転実測
6	石器	砥石	<5.0>	<2.6>	<1.8>	<32.9>	下部欠損、研削面数4	直軸系切	直軸系切	直軸系切	P6 の横	完全実測
7	石器	砥石	<5.2>	<2.7>	<3.2>	<63.2>	下部欠損、研削面数2、正面に条状	直軸系切	直軸系切	直軸系切	P6 の横	完全実測

施す1と櫛描斜走文を施す2が存在する。壺は赤彩を施すものと、施さないものが認められる。頸部文様帯が残存する6は、多段の櫛描縦文が施されている。手捏は輪積痕を残す鉢状の形態である。このような手捏土器は佐久市の弥生時代後期の遺跡から少なからず出土しており、例外的な存在ではない。輪積痕を残す行為は「人形土器」の内面にも共通するものであり、注意が必要であろう。

以上の出土遺物と、遺構の形態から本址は弥生時代後期箱清水期の環濠と考えられる。

第5節 ピット(第40・41図)

17基検出された。調査区全体に展開している。詳細は計測表を参照されたい。

第6節 遺構外出土遺物(第42図)

本来は遺構に伴うものであるが、重機による表土除去作業などにより遺構から切り離されてしまった遺物群である。当然のことながら、その内容は遺構出土土器の特徴を反映している。詳細は出土遺物観察表を参考されたい。

第III章 まとめ

根々井居屋敷遺跡はその名が示すとおり、根々井氏の館跡の存在を示唆する場所である。現在館跡は、今回の調査地点の西南に位置する正法寺とその周辺が長野県史跡に指定されているが、発掘調査によりこの指定地が館跡であることを証明できる成果は今のところない。今回の調査でも根々井氏の館跡に関連するような成果はなかった。

今回の調査では、弥生時代後期の環濠が発見された。湯川沿いには多くの大規模な弥生集落が中期後半以降展開しているが、現根々井集落の地下にもそのような集落が存在することが明らかとなった。根々井大塚古墳が近くに存在するが、古墳時代前・中期の遺構は存在しなかった。後期になると遺構が散見され、根々井氏の趨勢に関連するのであろうか?奈良時代から平安時代9世紀代にかけて隆盛する。

出土遺物の面からも今回の調査地点が、古代の一般集落とは異なるものであることをH9号住居址から出土した「和同開珎」の存在が示している。佐久市内では本例も含め7枚出土しているが、県内全体でも29枚の出土例しかない希少遺物である。



H1号住居址



H1号住居址カマド



H2号住居址



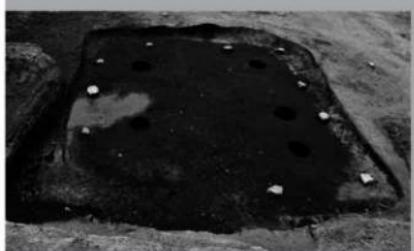
H3号住居址→



H4号住居址



H5号住居址



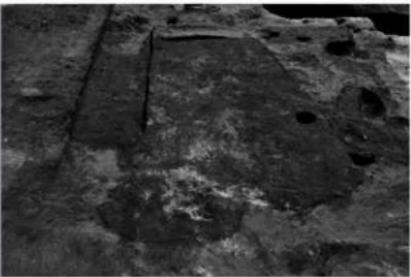
H6号住居址



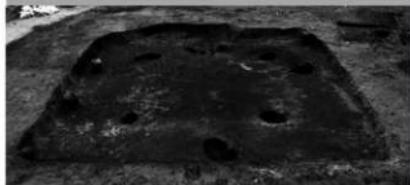
H7号住居址



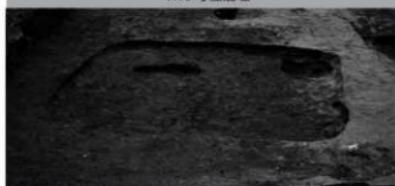
H8号住居址



H9号住居址



H10号住居址



H12号住居址



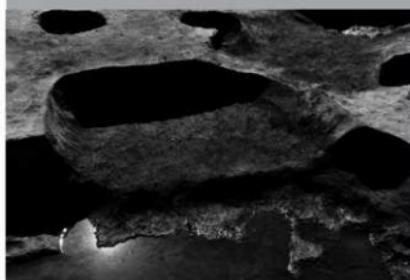
H11号住居址



H13号住居址



H13号住居址カマド



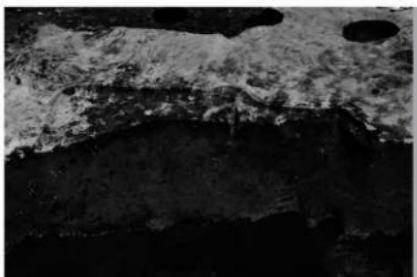
H15号住居址



H14号住居址



H16号住居址



H17 号住居址



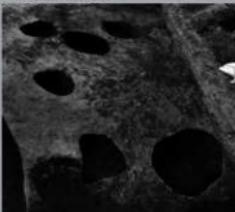
Ta1 号竖穴建物址



Ta2 号竖穴建物址



Ta3 号竖穴建物址



F2 号据立柱建物址



F1 号据立柱建物址



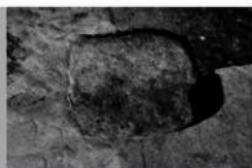
M1 号溝址



M2 号溝址



D1号土坑



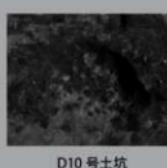
D2号土坑



D3号土坑



D4号土坑



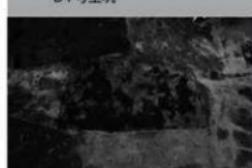
D10号土坑



D5号土坑



D6号土坑



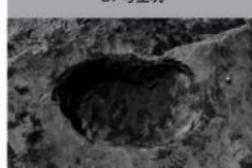
D7号土坑



D8号土坑



D9号土坑



D11号土坑



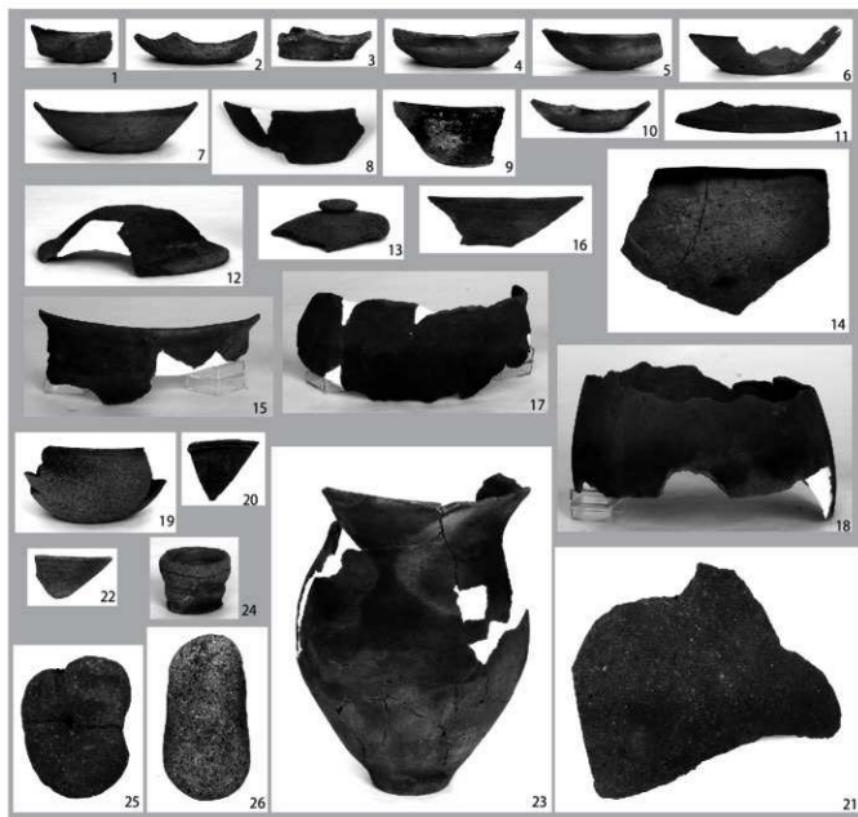
D12号土坑



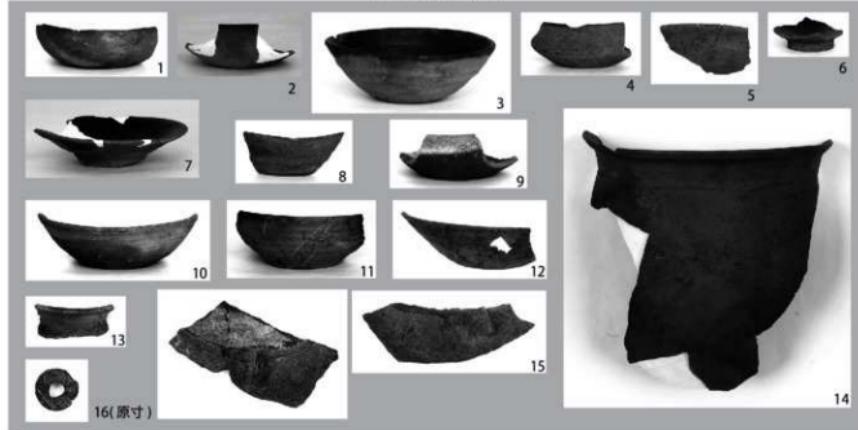
D13号土坑



全景（北から）



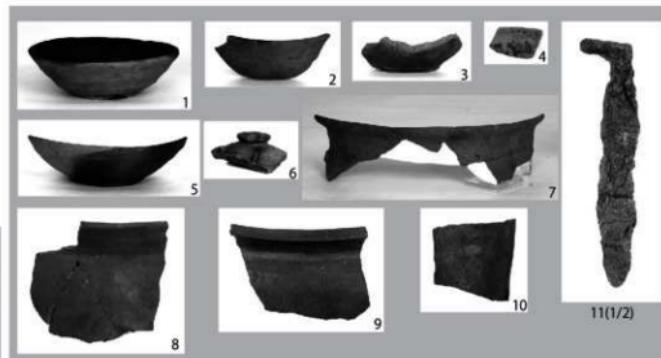
H1 号住居址出土遗物



H2 号住居址出土遗物



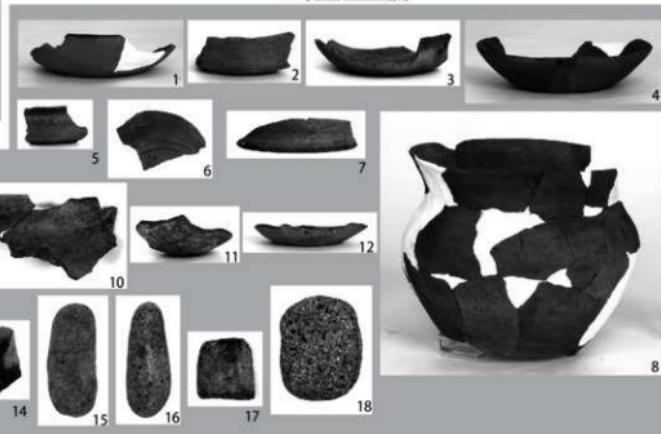
H3号住居址出土遺物



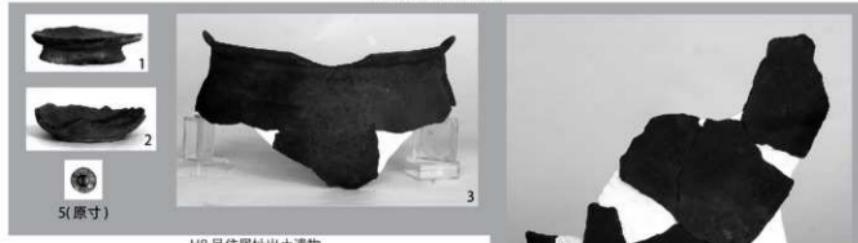
H4号住居址出土遺物



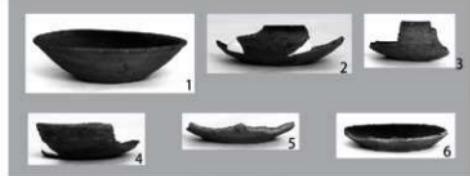
H5号住居址出土遺物



H6号住居址出土遺物



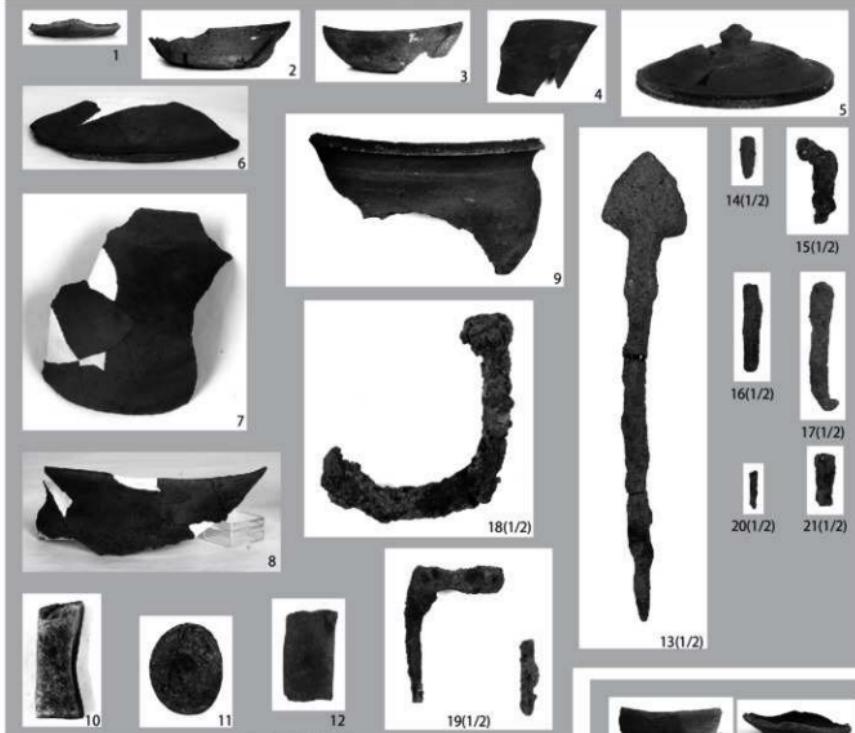
H8号住居址出土遺物



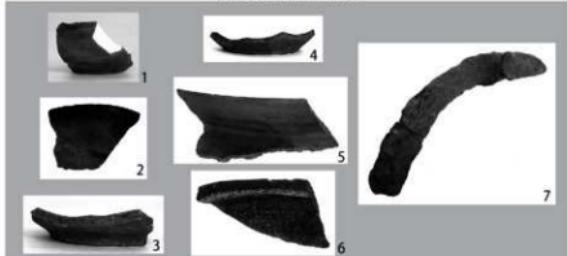
H9号住居址出土遺物(1)



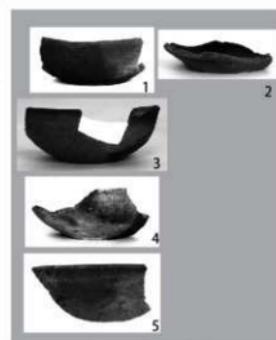
H9号住居址出土遗物 (2)



H10号住居址出土遗物



H11号住居址出土遗物



H12号住居址出土遗物



H13号居住址出土遺物



H14号住居址出土遗物



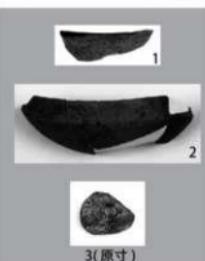
H15号住居址出土遗物



H17号住居址出土遗物



H16号住居址出土遗物



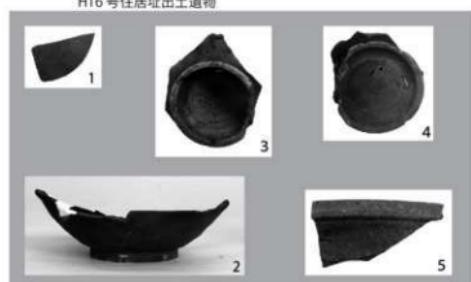
Ta1号竖穴建物址出土遗物



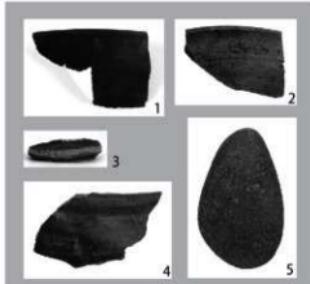
Ta2号竖穴建物址出土遗物



Ta3号竖穴建物址出土遗物



D1号土坑出土遗物



D3号土坑出土遗物



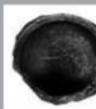
D5 号土坑出土遺物



D6 号土坑出土遺物



D9 号土坑出土遺物



M1 号溝址出土遺物



1

2

6

7

9

M2 号溝址出土遺物



P1 出土遺物



P10 出土遺物



P13 出土遺物



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ねねいいやしきいせき 1						
書名	根々井居屋敷遺跡 I						
副書名							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第 267 集						
編著者名	小林眞寿						
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課						
所在地	長野県佐久市中込 2913 〒 0267-63-5321 FAX 0267-63-5322						
発行年月日	令和 3 年（2021）3 月						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
ねねいいやしきいせき 1	さくしねねいあざいせき			36° 15'42"	138° 27'27"	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 3 年 3 月 19 日	690m ²
根々井居屋敷遺跡 I	佐久市根々井字伊勢田 816 外	20217	94				福祉施設 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
根々井居屋敷遺跡 I	集落址	弥生 古墳 奈良・平安 中世	竪穴住居址 -17 軒 掘立柱建物址 - 2 棟 竪穴建物址 - 3 土坑 -16 基 溝址 -2 条 ピット -15 基	弥生土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 石器・石製品 鉄器・銅器	和同開珎の出土		
要約	弥生時代後期の環濠、奈良・平安時代集落址及び中世遺構の調査。						

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 267 集

根々井居屋敷遺跡 I

令和 3 年 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒 385-0051 長野県佐久市中込 2913

〒 0267-63-5321

印刷所 双葉印刷